

COSMETIC COMPOSITION

特許公報番号 JP2001081037 (A)
公報発行日 2001-03-27
発明者: NISHIBE YUKINAGA; NABA YOSHIHIKO
出願人 ICHIMARU PHARMCOS INC
分類:
一国際: A61K8/06; A61K8/00; A61K3/97; A61K3/78; A61K3/75; A61P17/00; A61Q1/00;
A61Q1/12; A61Q5/00; A61Q5/02; A61Q5/12; A61Q1/00; A61Q17/04; A61Q19/00;
A61Q19/10; A61K3/06; A61K3/00; A61K3/78; A61K3/75; A61P17/00; A61Q1/00;
A61Q1/12; A61Q5/00; A61Q5/02; A61Q5/12; A61Q7/00; A61Q17/04; A61Q19/00;
A61Q19/10; (IPC1-7): A61K7/06; A61K3/78; A61K7/00; A61P17/00
一欧州:
出願番号 JP19990256373 19990909
優先権主張番号: JP19990256373 19990909

要約 JP 2001081037 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain an antiallergic agent excellent in prophylaxis and amelioration of troubles in the skin/scalp such as allergic dermatitis disease and atopic dermatitis or the rough dry skin, and useful for highly safe medicaments, cosmetics, etc., by including a specific plant extract.
SOLUTION: This agent comprises at least one kind of extracts from plants selected from the group consisting of (A) cacao, (B) cassia bark and (C.) eurasitic noble pericarpium. The component A is preferably obtained from cacao seeds, the component B is preferably obtained from the bark, root bark and/or root of Cinnamomum Cassia and the component C is preferably obtained from the malaration pericarp of Citrus unshiu. The above extract can be utilized as it is as an antiallergic agent and also can be included in a cosmetic composition preferably in a content of usually ≥ 0.001 wt %, especially 0.3-20 wt %. The extract is preferably obtained by squeezing various parts of various plant bodies as they are or after being crushed, or by extracting with a solvent various parts of various plant bodies as they are or after baling crushed.

esp@cenet データベースから供給されたデータ - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-81037

(P2001-81037A)

(43)公開日 平成13年3月27日 (2001.3.27)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テレポート* (参考)
A 6 1 K 35/78		A 6 1 K 35/78	C 4 C 0 8 3
	7/00	7/00	K 4 C 0 8 8
	7/48	7/48	K
			W
審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 26 頁) 最終頁に続く			
(21)出願番号	特願平11-256373	(71)出願人	000119472
(22)出願日	平成11年9月9日 (1999.9.9)		一丸ファルコス株式会社
			岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1
		(72)発明者	西部 幸修
			岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1 一
			丸ファルコス株式会社内
		(72)発明者	藤波 慶彦
			岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1 一
			丸ファルコス株式会社内
最終頁に続く			

(54)【発明の名称】 化粧料組成物

(57)【要約】

【課題】新規で安全な化粧料組成物を提供することを課題とする。

【解決手段】カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有する抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧料組成物を提供するものである。

【効果】抗アレルギー作用、ヒスタミン遊離抑制作用、抗補体活性作用、アラキドン酸代謝活性抑制作用、接触皮膚炎抑制作用を有し、又、皮膚炎症疾患（例えば、発赤、湿疹、浮腫、腫脹など）や、アトピー性皮膚炎、肌荒れなどに対して有効なものである。尚、その他一般的な飲食品類への利用も可能である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とする抗アレルギー剤。

【請求項2】 カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とするヒスタミン遊離抑制剤。

【請求項3】 カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とするアラキドン酸代謝活性抑制剤。

【請求項4】 カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有することを特徴とする接触皮膚炎抑制剤。

【請求項5】 請求項第1項から第4項記載の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤の内、何れか1種以上を含有することを特徴とする化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物を含有する抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧料組成物への応用に関するものである。

【0002】 その利用分野は、例えば、各種の外用製剤類（動物用にも使用する製剤も含む）全般において利用でき、具体的には、アンプル、カプセル、丸剤、錠剤、粉末、顆粒、固形、液体、ゲル又は気泡の1)医薬品類、2)医薬部外品類、3)局所用又は全身用の皮膚用化粧品類（例えば、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パックなどの基礎化粧料、洗顔料や皮膚洗浄料、マッサージ用剤、クレンジング用剤、除毛剤、脱毛剤、髪切り処理剤、アフターシェーブローション、ブレスローション、シェービングクリームなど）、4)頭皮・頭髮に適用する薬用又は／及び化粧用の製剤類（例えば、シャンプー剤、リンス剤、トリートメント剤、パーマメント液、染毛料、整髪料、ヘアートニック剤、育毛・養毛料など）、5)浴湯に投じて使用する浴用剤、6)その他、酸臭防止剤や消臭剤、防臭剤、衛生用品、衛生綿、ウエットティッシュ、口中清涼剤（例えば、歯磨き、マウスウォッシュなど）などが挙げられる。

【0003】

【従来の技術】 今日、最近の環境条件の悪化や生活様式の変化、社会生活の複雑化に伴うストレスの増加などにより、花粉症・アレルギー性鼻炎・気管支喘息・アトピー性皮膚炎・薬物による尋常性皮膚炎などのアレルギー性疾患や、肌荒れ、乾燥肌などに悩ま苦しむ人が増加している。特に、アトピー性皮膚炎は子供ののみならず、成人に及ぶまでの広い年代層でその増加が叫ばれ、現代病のひとつとして注目されている。

【0004】 本来、生体には、体内に侵入した異物（細菌、花粉、ダニなど：抗原）を排除するために、それに対抗する生体成分（抗体、リンパ球など）を産生して体を守るように働く免疫機能を備えている。ところが、時としてその反応が過敏になるために身体に有害となり、種々の病気の原因となってしまうことがある。この免疫機能による障害反応をアレルギーと呼んでおり、4つの型に分類されている。

【0005】 免疫系を構成する中心的細胞は、主に骨髄、胸腺、脾臓、リンパ節、血液などに存在するB細胞、T細胞と呼ばれる2種類のリンパ球の集団である。B細胞は体液性免疫（I～III型アレルギー）に関与し、抗原に反応して形質細胞（抗体産生細胞）に分化、増殖し、抗体を細胞外に分泌するようになる。又、T細胞は主に細胞性免疫（IV型アレルギー）に関与し、抗原と反応すると、分化、増殖し、抗原を破壊する活性化T細胞になる。

【0006】 I型アレルギー反応は、最も発症頻度が多い型であり、主に免疫グロブリンE（IgE）抗体が関与している。その発症過程は、外来性の抗原に対してB細胞からIgE抗体が産生され、肥満細胞や好塩基球にIgE抗体が固着し感作が成立する第1段階、抗原が再び接触した感作細胞からヒスタミン、セロトニン、SRSAなどの化学伝達物質が遊離する第2段階、遊離した化学伝達物質が平滑筋の収縮、血管透過性の亢進、浮腫、神経刺激などを引き起こしたりして、各種のアレルギー症状を発現する第3段階に大別される。

【0007】 II型アレルギー反応はIgGやIgM抗体によって組織の細胞が破壊されて起こる障害反応である。抗体が抗原細胞に結合すると、補体系（抗体のフェクター作用によって活性化して、抗原の細胞を殺したり、食細胞による抗原の分解を著しく促進したりする血清タンパク質の系）が連鎖的に活性化され、細胞膜を破壊する複合体が形成されるために、細胞が破壊される。又、活性化された補体系の成分が細胞に結合すると、多形核白血球やマクロファージなどの食細胞によって抗原細胞は捕捉されて分解し、除去される。一方、補体系の活性化の過程で、食細胞による抗原の分解を著しく促進する作用を有するアナフィラキシンと呼ばれる物質が生じる。これは毛細血管の透過性を増大させる作用、平滑筋を収縮させる作用、肥満細胞からヒスタミンを遊離させる作用も持っているため、過剰に生成されると各種のアレルギー症状が発現することとなる。

【0008】 III型アレルギー反応は主にIgG抗体によって起こるが、その発症は補体系や多形核白血球などの多くの因子が関与する複雑な機構で起こる。抗原に抗体が結合して生成した抗原抗体複合物は血管、腎臓、関節、皮膚などの組織に沈着して補体系を活性化させる。結合物の量が多いときには、補体系が過度に活性化してアナフィラキシンが生じ、そのために血管透過性が増大した

りて炎症が起こる。又、アナフィラトキシンの作用で食細胞が抗原抗体結合物を除去しようとする際、リソソームの脱顆粒反応が起こり、リソソーム内のプロテアーゼなど多種類の加水分解酵素が細胞外に放出されるため、組織や細胞の障害が進み、III型アレルギーが発症する。

【0009】I~III型アレルギー反応がいずれも体液性免疫による反応で、抗原と接触後2~3分で反応が現れ、十数分で反応が最高となるため、即時型と呼ばれるのに対し、IV型アレルギー反応は数時間後に現れ、最高に達するには48~72時間かかることから、遅延型アレルギーと呼ばれる。このアレルギー反応は細胞性免疫による反応で、T細胞の一部が抗原と反応して活性化T細胞となり、これが再び抗原と反応すると、リンホカインと呼ばれる種々の炎症性因子（マクロファージ走化性因子、リンパ球遊走因子、マクロファージ活性化因子、血管透過性因子など）を放出する。これらにより抗原を排除するように働くが、この反応が過度に進行すると障害反応としてアレルギーが発症する。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】従来より使用されている抗アレルギー剤の多くは、作用点が比較的に明確なI型アレルギー反応によって引き起こされる疾患に対する薬剤である。例えば、平滑筋を弛緩させる鎮痙薬や毛細血管の透過性の亢進を抑制する交感神経興奮薬、さらには抗ヒスタミン薬などが挙げられるが、これらはいずれも第3段階に作用する対照的治療薬であり、しかも、そのほとんどが合成医薬品であり、副作用の点で問題があった。

【0011】一方、現在最も活発に行われているI型アレルギー疾患に関する抗アレルギー剤の研究は、化学伝達物質の遊離を抑制する薬剤、遊離された化学伝達物質に対して拮抗作用を示す薬剤など、第2段階を抑制する薬剤の開発であるが、十分な効力を有するものは見つかっておらず、又、II、III型及びIV型アレルギー反応に対する特異的な抗アレルギー剤も見出されていないのが現状である。

【0012】

【課題を解決するための手段】このような事情に鑑み、本発明者らは、抗アレルギー作用に優れ、かつ副作用がなく、皮膚に緩和である物質について、天然物である植物からのスクリーニングを試みた。その結果、カカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物に、ヒスタミン遊離抑制作用、アラキドン酸の代謝活性抑制作用、接触皮膚炎抑制作用を有することを見出し、又、これらを含有してなるアレルギー性の皮膚炎症疾患（例えば、発赤、浮腫、湿疹、腫脹など）や、アトピー性皮膚炎、あるいは肌荒れといった皮膚・頭皮のトラブルの予防や改善に優れ、安全性の高い化粧料組成物を提供することをもって、本発明を完成するに至った。

【0013】

【発明の実施の形態】尚、本発明で使用する「カカオ（ココア、カカオノキ）」とは、アオギリ科(*Sterculia* *ceae*)、カカオ属(*Theobroma* *L.*)の植物：カカオ(*Theobroma cacao* *L.*)の種子を用いる。

【0014】「ケイヒ：桂皮」とは、クスノキ科(*Lauraceae*)、クスノキ属(*Cinnamomum* *Scheaff.*)の植物：シンナムム・カシヤ(*Cinnamomum cassia* *Blume*)の樹皮、根皮、根を用いるが、その他、同属植物のニッケイ(*Cinnamomum sieboldii* *Weisn.*)、ヤブニッケイ(*Cinnamomum japonicum* *Sieb. ex Nakai*)などを用いることもできる。

【0015】「チンピ：陳皮」とは、ミカン科(*Rutaceae*)、ミカン属(*Citrus*)の植物：ウンシュウミカン(*Citrus unshiu* *Marcov.*)の成熟果皮を用いるが、その他近縁植物(*Rutaceae*)の成熟した果皮を用いることができる。

【0016】

【発明の実施の形態】本発明で使用するカカオ、ケイヒ、チンピの抽出物とは、各々の植物体の各種部位（種子、樹皮、根皮、根、果皮など）をそのまま或いは粉砕後搾取したもの、又は、そのまま或いは粉砕後、溶媒で抽出したものである。

【0017】植物抽出物の抽出溶媒としては、水、アルコール類（例えば、メタノール、無水エタノール、エタノールなどの低級アルコール、或いはプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなどの多価アルコール）、アセトンなどのケトン類、エチルエーテル、ジオキサン、アセトニトリル、酢酸エチルエーテルなどのエステル類、キシレン、ベンゼン、クロロホルムなどの有機溶媒を、単独或いは2種類以上を任意に組み合わせて使用することができ、又、各々の溶媒抽出物が組み合わされた状態でも使用できる。

【0018】尚、製造方法は特に制限されるものはないが、通常、常温、常圧下での溶媒の沸点の範囲であれば良く、抽出後は濾過又はイオン交換樹脂を用い、吸着・脱色・精製して溶液状、ペースト状、ゲル状、粉末状とすれば良い。更に多くの場合は、そのままの状態でも利用できるが、必要ならば、その効果に影響のない範囲で更に脱臭、脱色などの精製処理を加えても良く、脱臭・脱色などの精製処理手段としては、活性炭カラムなどを用いれば良く、抽出物質により一般的に適用される通常の手段を任意に選択して行えば良い。

【0019】又、カカオ、ケイヒ、チンピの各種植物抽出物は応用する抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧料組成物の剤型・形態により乾燥、濃縮、或いは希釈などを任意に行い調整すれば良い。

【0020】本発明のカカオ、ケイヒ、チンピの各植物抽出物は、そのまま抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑

制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤として利用できる他、化粧品組成物へ含有できるが、その含有量は特に規定されるものではなく、抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤、化粧品組成物の剤型の種類、品質、期待される作用の程度によって若干異なり、通常、0.001重量%以上（以下、重量%で表わす）好ましくは0.2~20%が良い。尚、含有量が0.001%より少ないと効果が充分期待できない。

【0021】尚、本発明の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧品組成物は、前記の必須物質に加え必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲内で、下記に例示する成分や添加剤を任意に選択・併用して製造することができる。

【0022】(1)各種油脂類

アボガド油、アーモンド油、オレキョウ油、エゴマ油、オリーブ油、オレンジ油、ウインジャファー油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバ油、牛脂脂肪酸、クエイシード油、サフラワー油、シア脂、液状シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、パーシット油、ヒマシ油、綿実油、落花生油、タール油、ミンク油、卵黄油、バーム油、バーム核油、モクロウ、ヤシ油、牛脂、豚脂又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油等）など。

【0023】(2)ロウ類

ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス、スクワレン、スクワラン、プリスタンなど。

【0024】(3)鉱物油

流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、オゾケラიდ、セレン、マイクロクリスタンワックスなど。

【0025】(4)脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ペヘン酸、オレイン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、トール油、ラノリン脂肪酸などの天然脂肪酸、イソノナン酸、カブロン酸、2-エチルプタン酸、イソペンタン酸、2-メチルペンタン酸、2-エチルヘキサン酸、イソペンタン酸などの合成脂肪酸。

【0026】(5)アルコール類

エタノール、イソプロパノール、ラウリルアルコール、セタノール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロールなどの天然アルコール、2-ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2-オクチルデカノールなどの合成アルコール。

【0027】(6)多価アルコール類

酸化エチレン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、エチレングリコールモ

ノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ポリエチレングリコール、酸化プロピレン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン、ペンタエリトリール、ソルビトール、マンニトールなど。

【0028】(7)エステル類

ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸オレイル、オレイン酸デシル、ミリスチン酸オクチルデシル、ジメチルオクタ酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、酢酸ラノリン、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコールなど。

【0029】(8)金属セッケン類

ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、パルミチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛など。

【0030】(9)ガム質、糖類又は水溶性高分子化合物

アラビガム、バンソイグム、ダマラガム、グアヤク脂、アイルランド苔、カラヤガム、トラガントガム、キャロブガム、ケイシンード、寒天、カゼイン、乳糖、果糖、ショ糖又はそのエステル、トトラハロース又はその誘導体、デキストリン、ゼラチン、ペクチン、デンプン、カラギーナン、カルボキシメチルキチン又はキトサン、エチレンオキシドなどのアルキレン(C2~C4)

オキシドが付加されたヒドロキシアルキル(C2~C4)キチン又はキトサン、低分子キチン又はキトサン、キトサン塩、硫酸化キチン又はキトサン、リン酸化キチン又はキトサン、アルギン酸又はその塩、ヒアルロン酸又はその塩、コンドロイチン硫酸又はその塩、ヘパリン、エチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシエチルセルロース、カルボキシエチルセルロースナトリウム、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、ポリビニルメタクリレート、ポリアクリル酸塩、ポリエチレンオキシドやポリプロピレンオキシドなどのポリアルキレンオキシド又はその架橋重合物、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレンイミンなど。

【0031】(10)界面活性剤

アニオン界面活性剤（アルキルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルリン酸エステル塩）、カチオン界面活性剤（アルキルアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩）、両性界面活性剤：

カルボン酸型両性界面活性剤（アミノ型、ベタイン型）、硫酸エステル型両性界面活性剤、スルホン酸型両性界面活性剤、リン酸エステル型両性界面活性剤、非イオン界面活性剤（エーテル型非イオン界面活性剤、エーテルエステル型非イオン界面活性剤、エステル型非イオン界面活性剤、ブロックポリマー型非イオン界面活性剤、含窒素型非イオン界面活性剤）、その他の界面活性剤（天然界面活性剤、タンパク質加水分解物の誘導体、高分子界面活性剤、チタン・ケイ素を含む界面活性剤、フッ化炭素系界面活性剤）など。

【0032】(11)各種ビタミン類

ビタミンA群：レチノール、レチナール（ビタミンA1）、デヒドロレチナール（ビタミンA2）、カロチン、リコピン（プロビタミンA）、ビタミンB群：チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩（ビタミンB1）、リボフラビン（ビタミンB2）、ビロチキン（ビタミンB6）、シアノコバラミン（ビタミンB12）、葉酸類、ニコチン酸類、パントテン酸類、ビオチン類、コリン、イノシトール類、ビタミンC群：ビタミンC酸又はその誘導体、ビタミンD群：エルゴカルシフェロール（ビタミンD2）、コレカルシフェロール（ビタミンD3）、ジヒドロタキステロール、ビタミンE群：ビタミンE又はその誘導体、ユビキノール、ビタミンK群：フィトナジオン（ビタミンK1）、メナキノ（ビタミンK2）、メナジオール（ビタミンK3）、メナジオール（ビタミンK4）、その他、必須脂肪酸（ビタミンD）、カルニチン、フェルラ酸、γ-オリーブノール、オロチン酸、ビタミンP類（ルチン、エリオシトリン、ヘスペリジン）、ビタミンUなど。

【0033】(12)各種アミノ酸類

バリン、ロイシン、イソロイシン、トレオニン、メチオニン、フェニルアラニン、トリプトファン、リジン、グリシン、アラニン、アスパラギン、グルタミン、セリン、システイン、シスチン、チロシン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタミン酸、ヒドロキシリジン、アルギニン、オキシニチン、ヒスチジンなどや、それらの硫酸塩、リン酸塩、硝酸塩、クエン酸塩、或いはピロリドンカルボン酸のごときアミノ酸誘導体など。

【0034】(13)植物又は動物系原料由来の種々の添加物

これらは、添加しようとする製品種別、形態に応じて常法的に行われる加工（例えば、粉碎、製粉、洗浄、加水分解、醗酵、精製、圧搾、抽出、分画、ろ過、乾燥、粉末化、造粒、溶解、滅菌、pH調整、脱臭、脱色などを任意に選択、組合わせた処理）を行い、各種の素材から任意に選択して供すれば良い。

【0035】尚、抽出に用いる溶媒については、供する製品の使用目的、種類、或いは後に行う加工処理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、水溶性な

機溶媒（例えば、エタノール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなど）の中から選ばれた1種もしくは2種以上の混液を用いるのが望ましい。但し、用途により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、水のみを使用したリ、あるいは抽出後に除去しやすいたノールを採用し、単独又は水との任意の混液で用いたりすれば良く、又、搾り出したものでも良い。

【0036】尚、植物又は動物系原料由来の添加物を、全身用又は局所用の外剤用、化粧品類に供する場合、皮膚や頭髮の保護をはじめ、保湿、感触・風合いの改善、柔軟性の付与、刺激の緩和、芳香によるストレスの緩和、細胞賦活（細胞老化防止）、炎症の抑制、肌質・髪質の改善、肌荒れ防止及びその改善、発毛、育毛、脱毛防止、光沢の付与、清浄効果、疲労の緩和、血流促進、温浴効果などの美容的效果のほか、香付け、消臭、増粘、防腐、緩衝などの効果も期待できる。

【0037】原料とする具体的な植物（生薬）としては、例えば、アーモンド（へん桃）、アイ（藍藻）、アオカズラ（清風藤）、アオキ（青木）、アオギリ又はケナシアオギリ（梧桐）、アオツツラフジ（木防己）、アカシア、アカショウマ（赤升麻）、アカスグリ「果実」、アブラドウ、アカミノキ（ログウッド）、アカメガシワ（赤芽柏）、アカネ（茜草根）、アカヤジウ又はジウウ（地黄）、アギ（阿魏）、アキカラマツ、アキニレ（繡線菊）、アグアハ（オミテングヤシ）、アケビ（木通）、アサ（麻子仁）、マルバアサガオ又はアサガオ（牽牛子）、アジサイ（紫陽花）、アシタバ（明日葉）、アズキ（赤小豆）、アセロラ、アセナク（阿仙薬）、アチラ（ショクヨウカンナ）、アニス、アペマキ「果実」、アボカド、アマ、アマチャ（甘茶）、アマチャツル、アマドコロ（玉竹）、アマナ（光慈姑）、アマランサス（ヒメ、ハゲイトウ、ヒメゲイトウ、センニンコク、スキモリゲイトウ、ホソアゲイトウ、アゲイトウ、ハリビユ、アマランドウス・ヒボランドリアクス）、アミガサユリ又はバイモ（貝母）、アルカナ（アルカナ）、アルガローボ（キャベ）、アルデア、アルビニア又はカツマダイ（ソウズク）、アロエ（蘆薈）、アロエベラ、アンジェリカ、アンズ又はホンアンズ（杏仁）、アンソコウ（安息香）、イガコウゾリナ（地胆頭）、イカリソウ又はヤチマダイイカリソウ（イソウカク）、イグサ（灯心草）、イタドリ（虎杖根）、イチイ（一位）、イチゴ、イチジク（無花果「果実、葉」）、イチハツ（一初）、イチビ（冬葵子）、イチヤクソウ（一葉蘭）、イチョウ（銀杏「種子、葉」）、イトヒメハギ（遠志）、イナゴマメ、イヌナズナ（テイレキシ）、イヌビユ（ホナガイヌコメ）、イネ「種子、種皮」、イノンド「種子」、イブキヤクソウ、イラクサ、イランイラン、イワタバコ（岩菖蒲）、イワヒバ又はイワマツ（荊柏）、ウーロン茶、ウキョウウ（茵香）、ウィート（チブサノキ）、ウキヤガラ（三稜）、ウダイスカガラ「果実」、ヒメウキョウ、ウコン（鬱金）、ウキクサ（浮萍）、ウスバサヤン又

はケイリンサイシン又はオウシュウサイシン(細辛)、ウスベニアオイ、ウスベニタチアオイ、ウツボグサ(夏枯草)、ウド又はシシウド(羌活、独活、唐独活)、ウニヤデガト(ウンカリヤ、キャッツクロウ)、ウバ茶、ウメ(烏梅「種子、果肉」)、ウラジロガシ、ウウルシ(クサコケモモ)、エストラゴン、エゾウコギ(蝦夷五加)、エチナシ(ホソムラサキバレンギョウ)、エニシダ、エノキタケ(榎茸)、エビスグサ又はカシヤ・トウラ(決明子)、エルカンブレ、エルダーベリー「果实」、エレミ、エリンギ又はブレロタスエリンジ、エンジュ(槐花、槐花米)、オウギ又はキバナオウギ(黄耆)、オウレン(黄連)、オオカラスウリ(カロコン)、オオグルマ(土木香)、オオツヅラフジ(防己)、オオバコ(車前子、車前草)、オオハシバミ(榛子)、オオバナオウケラ又はオウケラ(白朮)、オオバナサルズベリ(ハナハバ)、オオバヤシャブシ「果实」、オオミサンザシ又はサンザシ(山楂子)、オウセイ(ナルコユリ、カキクルマバナナルコユリ)、オウヒササノユキ又はササノユキ、オオムギ(大麦)、オオホシグサ(假精草)、オカ、オカゼリ(蛇床子)、オグルマ(旋覆)、オクラ「果实」、オタネニンジン又はトチバニンジン(人參)、オトギリソウ又はゴゴメバオトギリソウ又はセイヨウオトギリソウ(第切草)、オドリコソウ(續断)、オオミズ(蒼耳子)、オニグルミ、オニドロコ又はトコロ又はナガドロコ(ヒカイ)、オニノヤガラ(天麻)、オニユリ又はササユリ又はハカタユリ(百合)、オノニス、オヒョウ(製菓用)、オミナエシ(散器)、オユーク、オランダカラシ(クレソン)、オランダゼリ、オランダミツバ、オリーブ「果实、種子、葉」、オレガノ、オレレンジ「果实、果皮」、カイケイジオウ(熟地黄)、カキ(柿蒂「葉」)、カギカズラ(釣藤鉤)、カキドオシ又はカントリソウ(鐵線草)、カシア、カジノキ(楮実「果实」)、ガジュツ(戟木)、カシワ(榎樹、榎葉)、カスカリヤ、カスカラグラダ、カスミソウ、カニクサ(金沙藤)、カニワ、カノコソウ(吉草根)、カバノキ又はシダレカンパ(白樺)、カボチャ、カボックノキ「種子」、カホクサシヨウ(獨攬)、カブ(蒟蒻)、カミツレ又はローマカミツレ、カミヤツデ(通草)、カムカム(カモカモ)、カルクサヤケム、カラスウリ又はシナカラスウリ(王瓜)、カラスビシャク(半夏)、カラスムギ、ガラナ「種子」、カラホホ(厚朴)、カラヤ、カリン(木瓜)、ガルシニア、カワミドリ、カワラサイコ(委陵菜、翻白草)、カワヂシャ、カワラタケ、カワラナデシコ(石竹)又はエゾカワラナデシコ(覆麦、瞿麦子)、カワランニンジン(青蒿)、カワロモギ(茵陳蒿)、カンスイ(甘遂)、カンゾウ(甘草)、カンタラササ、カンデリラ、カントウ、カンナ、カイチゴ(エイチゴ、オランダイチゴ、エビガライチゴ、ナワシロイチゴ、モミジイチゴ、ヨーロッパイチゴ)、ケイ「果实、葉」、キカラスウリ(瓜蒌根)、キキョウ(桔梗、桔梗根)、キク(菊花)、シマカンギク、チョウセンノギク)、キササゲ(梓

実)、ギシギシ(羊蹄根)、ギジツ(槲实)、ギズタ、キダチアロエ、キダチハッカ、キナ、キノノキ(シンコナー、アカキノノキ)、キヌア(キノア)、キハダ(黄柏)、ギムネマ・シルベスタ、キャベツ、キャベツ「未熟果」、キュウリ、ギョリユウ(西河柳、てい柳)、キラジヤ・サボナリア、キラヤ、キランソウ(金瘡小草)、キンカン「果实」、キンマ、キンズビキ(仙鶴草)、グアバ「果实」、グアウレ、ケルコース・インフェクトリア(没食子)、ククイナツツ、クコ(枸杞、枸杞子、枸杞葉、地骨皮)、クサシギカズラ(天門冬)、クズ(葛根)、クスノキ、グースベリ「果实」、クソニンジン(黃花蒿)、クチナシ(山梔子)、クヌギ(櫟ソウ)、クブアス、クマザサ、クマツヅラ(馬鞭草)、クララ(苦參)、クランベリー「果实」、クリ「種子、果実、液皮」、クルクリゴ・ラチフォリア「果实」、グレープフルーツ「果实・葉」、クロウメドモキ、クロガネサギ(救必應)、クロバナヒキオコシ又はヒキオコシ(延命草)、クローブ(丁香、丁香)、グンバイナズナ(セキメイ、セキメイシ)、ケイガイ(薺芥、薺芥穗)、ケイトウ(錦冠花、錦冠子)、ゲッケイジュ(月桂樹)、ケナシサルトリバシ(土茯苓、山佛果)、ゲンチアナ、ゲンノショウコ(老鶴草)、ケンボナシ(キグシ)、コウキセツコク、キシュウミカン(コウジ、タチバナ、オオベニミカン、フレクミカン、サガミコウジ、ボンカン、サンタラ(橘皮))、コウシンバラ(月季花)、コウスイハッカ、コウジ「果实」、コウチャ(紅茶)、コウホネ(川荷)、コウホン(藁本、唐藁本)、コウリヤン、コウリョウキョウ(高良姜)、コモンドロ「果实」、コウレン(胡黃連)、コガネバナ(黄鈴)、コケモモ(越橘)、ココシ「果实」、ゴシュウ(呉茱萸)、ゴシヨイチゴ(覆盆子)、ゴシヨウ(胡椒)、コババハバルサム、コービー「種子、葉」、コブシ又はモクレン(辛夷)、ゴボウ(牛蒡、牛蒡子)、コボタツツ、ゴマ(胡麻)、ゴマハハグサ(玄參)、ゴミシ(五味子)、サネカズラ又はビナンカズラ又はマツバサ、コムギ(小麦)、米又は米糠「赤糠、白糠」、コム油、コーラ「果实・種子」、コーラ・ベラ「種子」、コロハ「果实」、コロソバ、コンズランゴ、コンブ、コンニャク、コンプリ(鱧草)、サイザル(サイザルアサ)、サキシマボタツツ又はシナボタツツ又はシナセンニンソウ(威靈仙)、サクラ(オオシマザクラ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガシ、マメザクラ、ミヤマザクラ、ソメイヨシノ、タカネザクラ、カスミザクラ、チョウジザクラ、コヒガン、サトザクラ、カンザクラ「葉、花、果実、樹皮(楳皮)」)、サクランボ、ザクロ、ササ、サザン、サジオモダカ(沢瀉)、サツシモ、サトウキビ、サトウダイコン、サネブトナツメ(酸漿仁)、サフラン(番紅花、西紅花)、ザボン「果实」、ザボンソウ、サモベリー「果实」、サラシナシヨウマ(升麻)、サルビア(セージ)、サワギキョウ(山梗菜)、サワグルミ(山胡桃)、サングレデグラード(クロトン)、サンシクヨウソ

ウ、サンシチニンジン(三七人參)、サンシュユ(山菜英)、サンショウ(山椒)、サンズコン(山豆根)、シア(カリテ)、シアノキ「果実」、シイタケ(椎茸)、シオン(紫苑)、ジキタリス、シキンシ(使君子)、シソ又はアオジソ又はチリメンソウ又はカタメニンジン(紫蘇葉、紫蘇子)、シタン、シナノキ、シナホオノキ、シナレンギョウ(連翹)、シメジ(ヒメシメジ)、シカシメジ、ハタケシメジ、オシロイシメジ、フナシメジ、ホンジメシ、シロタモギタケ)、シモツケソウ、ジャガイモ、ジャクヤク(芍薬)、シャジン(沙参)、ジャズミン(マツリカ)、ジャノヒゲ(麦門冬)、シュクコンカスミソウ、シュクシヤミツ(砂仁、縮砂)、ジュズダマ、シュロ「果実」、シヨウガ(生姜)、シヨウザンアジサイ(常山)、シヨウブ(菖蒲、菖蒲根)、ショズク「果実」、シラカシ「種子」、シロゴチョウ「種子」、シロトウアズキ(鵲骨草)、シロバナナリス(ニオイナリス)、シロバナツタ「花」、シロミナテン(南天実)、シロコナサケシルブラ、ジンチョウゲ(瑞香、瑞香花、沈丁花)、シンナモン、スイカ(西瓜)、スイカズラ(金銀花、忍冬)、スイバ(酸模)、スイムベリ「果実」、ステビア、ストロベリー「果実」、スズサイコ(徐長卿)、スギナ(間苗)、スベリヒユ(馬齒げん、馬齒げん子)、スモモ「果実」、セイヨウアカマツ「球果」、セイヨウカラマツ、セイヨウキズタ、セイヨウグルミ、セイヨウサンザシ、セイヨウタンポポ、セイヨウトチノキ(マロニエ)、セイヨウナシ「果実」、セイヨウナツメクシソウ、セイヨウニワトコ(エルダー)、セイヨウネズ(ジュンバー、杜松)、セイヨウノコギリソウ(ミルポイル)、セイヨウバラ、セイヨウワフチョウボク、セイヨウヤドリギ、セイヨウハッハ又はセイヨウヤマハッハ、セイヨウワサビ、セキショウ(石菖根)、セッコク(石斛)、セドロン(ボウシュウボク)、ゼニアオイ、ヒロハセギ、セネガ、セリ、セロリ、センキュウ(川キュウ)、センシレン(穿心連)、センドン、センプリ(当歸)、センナ「果実、葉」、センニンソウ(大蓼)、ソウカ(草果)、ソバ「種実」、ソメモノイモ、ダイオウ(大戟)、大根、大豆、ダイダイ(橙皮、枳実)、タカサブロウ(華蓋草)、タカトウダイ(大戟)、タカラビ(狗脊)、ダークスティーチー「果実」、タチアオイ、タチヤコソウ(タイム、百里香)、タチドコロ(ヒカイ)、タチヤナギ、タマリンド「種子」、タマネギ、タムシバ(辛夷)、タラノキ「果実、葉、根皮」、タルウィ、タンジン(丹參)、タンポポ(蒲公英)又はシロバナタンポポ又はモウコタンポポ、ダンマル、チェリー「果実」、チガヤ「果実、根、芽」、チクセツニンジン(竹節人參)、チロリ、チャンカビエド(キダチコニカンソウ)、チョウセンダイオウ(大黃)、チョウセンニレ(熊夷)、チョウセンヨモギ(艾葉)、チロレマイタケ(猪苓)、チョロキ、ツクミソウ、ツクリタケ(マツシールーム)、ツバキ、ツボクサ、ツメクサ(漆姑草)、ツククサ(鴨跖草)、ツルアズキ(赤小豆)、ツルドクダミ

(何首烏)、ツルナ(蕎麥)、ツルニンジン(四葉參)、ツブキ、デイク、テウチグルミ、デュベリ「果実」、テングサ、テンチャ(甜茶)、テンダイウヤク(烏藥)、トウガ(冬瓜子)、トウカギズラ、トウガラシ(番椒)、トウキ(當歸)、トウキンセンカ(マリーゴールド)、トウナバナ(川斷)、トウモロコシ又はトウモロコシ毛(南廬毛)、トウネズミモチ(女貞子)、トウリンドウ又はチョウセンリンドウ(竜胆)、トクサ(木賊)、ドクダミ(十葉)、トコン(旺根)、トシシ又はマメダシ又はネナシカズラ、トチュウ(杜仲「樹皮、葉、根」)、トネリコ(桑皮)、トマト、トラガント、トリアカンソウ「種子」、トルメンチラ、ドロノキ、トロアアオイ、ナイゼリアベリ「果実」、ナガイモ又はヤマノイモ(山藥)、ナギイカダ(ブツチャーブルーム)、ナギナタコウジュ、ナズナ、ナタネ、ナタメ又はタテハキ(刀豆)、ナツミカン、ナツメ(大戟)、ナニウイバ(金櫻子)、ナベバ(統斷)、ナメコ、ナルコユリ(黃精)、ナンキンマ(落花生)、ナンテン(南天実)、ナンバンカラムシ(茅根)、ニガキ(苦木)、ニガモギ(苦苣)、ニクズク、ニラ(韭子)、ニワトコ(接骨木「果実、花、莖、葉」)、ニンニク(大蒜)、ヌルデ(五倍子)、ネギ、ネムノキ又はネブ又はネビ又はネムリノキ又はジゴクバナ(合歡)、ノアザミ(大戟)、ノイバラ(薔薇)、ノコギリソウ、ノダケ(前胡)、ノハラ、ノモモ、バーム、バイナッブル「果実」、ハイビスカス(ブツウゲ、フウリンブツウゲ、ローズハル)、ハリリンドウ、ハカマウラボシ(骨碎補)、ハクセン(白麝香)、ハクルベリ「果実」、ハコベ(繁縷)、ハコセ(榛子)、ハシリドコロ(ロート根)、バジル、ハス(蓮、蓮肉、蓮子)、パセリ(オランダゼリ)、ハダカムギ、バタタ、ハチク又はマダケ(竹茹)、パチョリー、ハッカ(薄荷、薄荷葉)、ハトムギ(ヨクイニン)、ハナスゲ(知母)、バナナ、バナハッカ、ハナビシ(シツリシ、シシツリ)、パニラピンズ、ハババヤ、ハバゴサ(鼠麴草)、ハバロボ、ハブ「全草、莖、葉」、パプリカ、ハマゴウ又はミツバハマゴウ(蔓荊子)、ハマスゲ(香附子)、ハマバシ(シツリ子)、ハマナス(マイカイ花)、ハマフビシ(紙防風)、ハメリリス、バラ(薔薇)、ハラタケ(ハラタケ、シロオハラタケ、ウスキモリノカサ)、ハラバ、パリウ(セイヨウハマナツメ)、パリエタリヤ、パルサミーナ(ツルレイシ、ニガウリ)、ハルニレ(榆皮、榆白皮、榆葉)、ハルリンドウ、ハンダイカイ(胖大海)、パノキ、ヒオウギ(射干)、ヒカガツニンジン(党參)、ブーアル茶(普洱茶)、ピーカンナツツ、ヒガンバナ(石蒜、蔓珠沙華)、ヒシ(菱莖)、ビスタチオ、ビート、ヒトツバ(石葦)、ヒトツバエニシダ、ヒナチノゴズチ(牛膝)、ヒノキ、ヒバ、ヒマシ、ヒマワリ、ピーマン、ヒメウズ(天葵)、ヒメガマ(香蒲)、ヒメマツタケ(カワリハラタケ、ヒロマツタケ)、ヒメタナ「果実」、ビヤクシ、ビヤクキョウ、ヒユ「果実」、ピロウドアオイ、ピロハオキナグサ(白頭翁)、ピワ「果実、葉、莖」、ビ

ンロウ(大服皮、檳榔子)、フウトウカズラ(南藤)、フキ、フキタンポポ(款冬花、款冬葉)、フジバカマ(蘭草)、フジマメ(扁豆)、ブドウ「果実、果皮、種子、葉」、ブナ、フユムシナツクサタケ(冬虫夏草)、ブラジルカンゾウ、ブラジリニンジン、ブラックカーラント「果実」、ブラックベリー、プラム「果実」、フルセリリア、ブルーベリー(セイヨウヒメスノキ)、ブルー、ブロードサイルーム、ブドウ(緑豆)、ヘーゼルナッツ、ヘチマ、ペニバナ(紅花)、ヘネケン、ペラドンナ、ペリ「果実」、ペルビアンバグ、ベンケイソウ又はイキクサ(景天)、ボウレンソウ「果実」、ホウキギ又はニワクサ又はネンドウ又はハハキギ・コキア(地膚子)、ホウセンカ(鳳仙、急性子、透骨草)、ホウノキ、ボウフウ(防風)、ホウレンソウ、ホズキ(登呂根)、ホオノキ(和厚朴、朴)、ボケ(木瓜)、ホソバナオケラ(蒼朮)、ホソバノキリンソウ(景天三七)、ホソババレンギク、ボダイジュ(菩提樹)、ボタン(牡丹「花、葉、莖、樹皮」)、ボタンビ(牡丹皮)、ホップ、ホホバ、ボルドー、ホワートンベリー「果実」、ホノオニク(肉じゅず、大芸)、ホンセッコ(鉄皮石解、雀山石解)、マイズルテンナンショウ(天南星)、マイタケ(舞茸)、マオウ(麻黄)、マカ、マカデミアナツク、マクリ(海人草)、マダマ(桑白皮「樹皮、葉」)、マダリヤ・スプレングリ、マシュア(タノヲウゼンハレン、キュウコンキンレンカ)、マタビ(木天蓼)、マツササ、松「葉、樹皮、根」、マツホド(茯苓)、マツコ(コルドンシージュ)、マヨラム(ハナハッカ)、マバノジャジン(苦参)、マルベリー「果実」、マルメロ、マンゴー、マンゴスチン、マンサニヤ(アンデスカミツレ)、マンショウグミ、マンダリン「果実」、マンネンタケ(靈芝)、キジツ(枳実「果実」)、ミシマサイコ(紫胡)、ミズオオバコ又はミズアサガオ(竜舌草)、ミソカクシ(半辺蓮)、ミソハギ(千屈菜)、ミチヤナギ又はニワヤナギ(常春)、ミツガシワ、ミツバ、ミドリハッカ、ミモザ、ミヨウガ、ミラクルフルーツ「果実」、ミルラ、ミロバラン、ムギワラギク、ムクゲ(木槿)、ムクノキ、ムクロジ(延命皮)、ムニヤ、ムラサキ(紫根)、ムラサキシキブ又はオオムラサキシキブ(紫珠)、ムラサキトウモロコシ、ムラサキナツブジ(昆明鶏血藤)、メハジキ(益母草)、メボウギ、メラロイカ、メリッサ、メリロート、メロン「果実」、モウコヨモギ、モウソウチク、モジエ(コショウボク)、モッコウ(木香)、モミジバダイオウ、モモ(桃「葉、種子、花、果実」)、モヤシ、モロチエリ「果実」、モロヘイヤ(黃蓍)、ヤカワムラサキイモ、ヤクチ(益智)、ヤグルマナギ(ヤグルマギク)、ヤグルマハッカ、ヤーコン、ヤシャブシ(矢車)又はヒメヤシャブシ又はオオバヤシャブシ「果実、果皮、果穂」、ヤチヤナギ、ヤツデ(八角金盤)、ヤドリギ(樹寄生)、ヤナギ(カワヤナギ、タチヤナギ、シダレヤナギ、アカメヤナギ、ネコヤナギ、イヌコリヤナギ、キヌヤナギ、コリヤナギ、ウンリ

ユウヤナギ、ミヤヤナギ、ヤシ、ヤマヤナギ、オオバヤナギ、タイリクキヌヤナギ、キツネヤナギ、ドロノキ、ヤナギタテ「葉、莖」、ヤブガラシ、ヤブコウジ(紫金牛)、ヤブタバコ(鶴虱、天名精)、ヤマゴボウ(商陸)、ヤマハノキ(山楡)、ヤマモモ(楊梅皮)、ヤマモモギ、ユーカリ、ユキノシタ(虎耳草)、ユッカ又はフレビフォリア、ユズ「果実」、ユリ、ヨロイダギ、ヨモギ(艾葉)、ライガン(雷打)、ライム「果実」、ライムギ、ラカンカ「果実」、ラズベリー「葉、果実」、ラタニア(クラメリア)、ラッキョウ又はエシャロット(薤白)、ラベンダー、リュウガク(竜眼肉)、リュウゼツラン(アオノリュウゼツラン、フクリンリュウゼツラン)、リュウキヤ(綠茶)、リンゴ「果実、種子、葉、根」、リンドウ、ルバスタ又はアビシムス(蜀漆)、レイシ(荔枝、荔枝核)、レタス(チシャ)、レッドカーラント「果実」、レモン「果実」、レモングラス、レンギョウ又はシナレンギョウ(連翹)、レンゲソウ、ロウヤシ、ロコン(ヨシ、蘆根)、ローガンベリー「果実」、ローズマリー(マンネンロウ)、ローズヒップ(ノバラ)、ワサビ、ワレモコウ(地榆)などが挙げられる。

【0038】又、その他の海水類、例えば、海水塩、海水乾燥物、死海又は大西洋又は太平洋の海より得た無機塩(塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウムなど)、海泥又は泥(ファンゴ)類、例えば、イタリアファンゴ、ドイツファンゴ、アイフェルファンゴ、フライブルグファンゴなどの各地の海泥又は泥(含有成分:二酸化珪素、二酸化チタン、酸化アルミニウム、酸化鉄、酸化マンガン、酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化ストロンチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、カルシウム、クロム、鉄、銅、ニッケル、亜鉛、鉛、マンガン、ヒ素、水)、聖徳石など。

【0039】海藻類としては、海藻【緑藻類:クロレラ・ブルガリス、クロレラ・ビレノイダサ、クロレラ・エリプソイデア、アオノリ(ウスバアオノリ、スジアオノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリ、ウソエダアオノリ)、海藻【褐藻類:コンブ(マコンブ、リシリコンブ、ホソメコンブ、ミツイシコンブ)、ワカメ、ヒロメ、アワカメ、ジャイアントケルプ(マクロシステス・ピリフェラ、マクロシステス・インテグリアフォリア、ネオシステス・ルエトケアーナ)、ヒジキ、ヒバマタ、海藻【紅藻類:ヒジリメ、マクサ(テングサ)、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、カタオバクサ、ヤタバゲサ、ユイキリ、シマテングサ、トサカノリ、トゲクリンサイ、アマクサクリンサイ、クリンサイ、ビュクシンクリンサイ、ツノマタ、オオバツノマタ、トチャカ(ヤハズツノマタ)、エゾツノマタ、トゲツノマタ、ヒラコトジ、コトジツノマタ、スギノリ、シキンノリ、カイノリ、イボツノマタ、ヤレウスバノリ、カグウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、アカモミジノリ】な

どが代表的なものとして挙げられる。

【0040】又、その他の藻類、例えば、緑藻類(クラミドモナス属:クラミドモナス、アカユキモ、ドウナリエラ属:ドウナリエラ、クロロコッカス属:クロロコッカス、クワノミモ属:クワノミモ、ボルボックス属:オオヒゲマワリ、ボルボックス、バルメラ属、ヨツメモ属、オオミドロ属:ヒサヨリ、オオミドロ、ツルギミドロ属、ヒビミドロ属:ヒビミドロ、アオサ属:アナアオサ、アミアオサ、ナガアオサ、カワノリ属:カワノリ、フリツチエラ属、シオグサ属:オオシオグサ、アサミドリシオグサ、カワシオグサ、マリモ、バロニア属:タマゴバロニア、タマバロニア、マガタマ属:マガタマモ、イワツタ属:フサイツタ、スリコギツタ、ヘライワツタ、クロミル、ハネモ属、ミル属:ミル、クロミル、サキブチミル、ナガミル、ヒラミル、カサノリ属:カサノリ、ジュズモ属:フトジュズモ、タマジュズモ、ミゾジュズモ、ミカツキモ属、コレカエテ属、ツツミモ属、キッコウグサ属:キッコウグサ、ヒトエグサ属:ヒトエグサ、ヒロハノヒトエグサ、ウスヒトエグサ、モツキヒトエ、サヤダロ属、クンショウモ属、スミレモ属:スミレモ、ホシミドロ属、フシナシミドロ属など)。

【0041】藍藻類(スイゼンジノリ属:スイゼンジノリ、アオコ属、ネンジュモ属:カワタケ、イシクラガ、ハッサイ、ユレモ属、ラセンモ(スピリナ)属:スピリナ、トリコデスミウム(アイアカシ)属など)。

【0042】褐藻類(ピラエラ属:ピラエラ、シオミドロ属:ナガミシオミドロ、イソブドウ属:イソブドウ、イソガラ属:イソガラ、クロガラ属:ダンセンクロガラ、カシラザキ属:カシラザキ、ムチモ属:ムチモ、ヒラムチモ、ケベリグサ、アミジグサ属:アミジグサ、サキヒロアミジ、サナダグサ属:サナダグサ、フクリンアミジ、コモングサ属:コモングサ、ヤハズグサ属:エゾヤハズ、ヤハズグサ、ウラボシヤハズ、ジガミグサ属:ジガミグサ、ウミウチワ属:ウミウチワ、コナウミウチワ、アカバウミウチワ、ナミクラ属:ヒルナミクラ、ソメワケグサ属:ソメワケグサ、ナバリモ属:ナバリモ、チャソウメン属:モツキチャソウメン、マツモ属:マツモ、ナガマツモ属:ナガマツモ、オキナフモズ属:オキナフモズ、ニセフトモズ属:ニセフトモズ、フトモズ属:フトモズ、イシモズ属:イシモズ、クロモ属:クロモ、ニセモズ属:ニセモズ、モズ属:モズ、イシゲ属:イシゲ、イロロ、イチメダグサ属:イチメダグサ、ケヤリ属:ケヤリ、ウミボツ属:ウミボツ、ウルシグサ属:ウルシグサ、ケウルシグサ、タバコグサ、コンブモドキ属:コンブモドキ、ハバモドキ属:ハバモドキ、ハバノリ属:ハバノリ、セイヨウハバノリ属:セイヨウハバノリ、コンブクロ属:コンブクロ、エゾブクロ属:エゾブクロ、フクロノリ属:フクロノリ、ワタモ、チシマフクロノリ

属:チシマフクロノリ、カゴメノリ属:カゴメノリ、ムラドリ属:ムラドリ、サメズグサ属:サメズグサ、イワヒゲ属:イワヒゲ、ヨコジマノリ属:ヨコジマノリ、カヤモノリ属:カヤモノリ、ウイキョウモ属:ウイキョウモ、ツルモ属:ツルモ、アナメ属:アナメ、スジメ属:スジメ、ミスジコンブ属:ミスジコンブ、アツバミスジコンブ、コンブ属:ガツガラコンブ、カギザコンブ、オニコンブ、ゴヘイコンブ、ナガコンブ、エンドウコンブ、オオチヂミコンブ、トロロコンブ属:トロロコンブ、アントクメ属:アントクメ、カジメ属:カジメ、ツルアラメ、クロメ、キタシシコンブ属:キタシシコンブ、ネジレコンブ属:ネジレコンブ、クロシオメ属:クロシオメ、ネコアシコンブ属:ネコアシコンブ、アラメ属:アラメ、アイヌワカメ属:アイヌワカメ、チガイソ、オニワカメエゾイシゲ属:エゾイシゲ、ヤバネモ属:ヤバネモ、ラッパモ属:ラッパモ、ジョロモ属:ウガノモ、ジョロモ、ヒモク、ホンダワラ属:タナシモク、イソモク、ナガシマモク、アカモク、シダモ、ホンダワラ、ネジモク、ナラサモ、メタワラ、タツクリ、ヤツタモク、ウミトラノオ、オオバモク、フシズシモク、ハハキモク、トゲモク、ヨレモク、ノコギリモク、オオバノコギリモク、スギモ属:スギモ、ウキモ属:オオウキモ、ブルウキモ属:ブルウキモ、カヤモノリ属:カヤモノリなど)。

【0043】紅藻類(ウシケノリ属:ウシケノリ、フノリノウシケ、アマノリ属:アサカサノリ、スサビノリ、ウツブリノリ、オニアマノリ、タサ、フイリタサ、ベニタサ、ロドコルトン属:ミルノベニ、アケボノモズ属:アケボノモズ、コナハダ属:ハイコナハダ、ゴレコナハダ、アオコナハダ、ウミゾウメン属:ウミゾウメン、ツクモノリ、カモガラノリ、ベニモズ属:ベニモズ、ホソベニモズ、カサマツ属:カサマツ、フサノリ属:フサノリ、ニセフサノリ属:ニセフサノリ、ソデガラミ属:ソデガラミ、ガラガラ属:ガラガラ、ヒラガラガラ、ヒロハタマイタダキ属:ヒロハタマイタダキ、タマイタダキ属:タマイタダキ、カギケノリ属:カギケノリ、カギケノリ、テングサ属:ヒメテングサ、ハイテングサ、オオブサ、ナンブダ、コヒラ、ヨヒラ、キヌクサ、ヒビロウド属:ヒビロウド、ヒメヒビロウド、イソムメモドキ属:イソムメモドキ、ミチガエソウ属:ミチガエソウ、リュウモンソウ属:リュウモンソウ、ヘラリュウモン、ニセカレキグサ属:ニセカレキグサ、オキツバラ属:オオバオキツバラ、アカバ属:アカバ、マルバアカバ、ナミノハナ属:ホソバナミノハナ、ナミノハナ、サンゴモドキ属:ガラガラモドキ、シオグサゴロモ属:シオグサゴロモ、イワノカワ属:エツキイワノカワ、カイノカワ属:カイノカワ、カニノテ属:カニノテ、サンゴモ属:サンゴモ、ムカデノリ属:ムカデノリ、スジムカデ、カタノリ、ヒラムカデ、キョウノヒモ、サクラノリ、ニクムカデ、タンバノリ、ツルツル、

イソノハナ属：ヌラクサ、クロスラクサ、オオムカデノリ、ヒラキントキ属：ヒラキントキ、マタボウ属：マタボウ、キントキ属：チャボキントキ、キントキ、マツノリ、コメノリ、トサカマツ、ヒツツマツ、カクレイト属：オオバキントキ、イトフノリ属：イトフノリ、ナガオバナ属：ナガオバナ、フノリ属：ハナフノリ、フクロフノリ、マフノリ、カレギサ属：カレギサ、トサカモドキ属：ホソバトサカモドキ、ヒロハノトサカモドキ、ヤツデガタトサカモドキ、クロトサカモドキ、ネザシノトサカモドキ、キヌハダ属：キヌハダ、エゾトサカモドキ属：エゾトサカ、ツカサノリ属：エナシカリメニア、オオツカサノリ、ハナガタカリメニア、ホウノオ属：ホウノオ、ヒカゲノイト属：ヒカゲノイト、ウスギス、ニクホウノオ属：ニクホウノオ、ベニナゴ属：ベニナゴ、ススカケベニ属：ススカケベニ、オカムラギサ属：ヤマダギサ、ミリン属：ミリン、ホソバミリン、トサカノリ属：キクトサカ、エゾナメシ属：エゾナメシ、イソモッカ属：イソモッカ、ユカリ属：ユカリ、ホソユカリ、イバラノリ属：イバラノリ、サイダイバラ、タチイバラ、カギイバラノリ、キジノオ属：キジノオ、イソダンツウ属：イソダンツウ、アツバノリ属：アツバノリ、オゴノリ属：オゴノリ、ツルシラモ、シラモ、オオオゴノリ、ミゾオコノリ、カバノリ、テングサモドキ属：ハチジョウテングサモドキ、フシクレノリ属：フシクレノリ、ナミイワタケ属：ナミイワタケ、カイメンソウ属：カイメンソウ、オキツノリ属：オキツノリ、サイミ属：イタニグサ、サイミ、ハリガネ、ハスジギサ属：ハスジギサ、スギノリ属：イカノアシ、ホソイボノリ、ノボノリ、クロハギンナンソウ属：クロハギンナンソウ、アカバギンナンソウ属：アカバギンナンソウ、ヒシブクロ属：ヒシブクロ、マダラギサ属：トゲマダラ、エツキマダラ、タオヤギソウ属：タオヤギソウ、ハナサクラ、フクロツナギ属：フクロツナギ、スジコノリ、ハナノエダ属：ハナノエダ、ヒラタオヤギ属：ヒラタオヤギ、ダルス属：ダルス、マサゴシバリ、アナダルス、ウエバギサ属：ウエバギサ、ベニフクロノリ属：ベニフクロノリ、フツツナギ属：フツツナギ、ヒメフツツナギ、ヒロハフツツナギ、ワツナギソウ属：ヒラワツナギソウ、ウスバワツナギソウ、イギス属：イギス、ケイギス、ハリイギス、ハネイギス、アミクサ、エゴノリ属：エゴノリ、フトイギス、サエダ属：サエダ、チリモミジ属：チリモミジ、コノハリ科：ハバタエノリ、コノハリ、スズシロノリ、ウスベニ属：ウスベニ、ハスジギタ属：ハスジギタ、ナガコノハリ属：ナガコノハリ、スジギタ属：スジギタ、アツバシギタ、ハイウスバノリ属：カギウスバノリ、ヤレウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、ウスバノリモドキ属：ウスバノリモドキ、アヤニキ属：アヤニキ、アヤギタ属：アヤギタ、ダジ属：エナシダジ、シマダジ属：イソハギ、シマダジ、ダジモドキ属：ダジモドキ、イトグサ属：モ

ロイトグサ、フトイグサ、マクリ属：マクリ、ヤナギノリ属：ハナヤナギ、ユナ、ヤナギノリ、モツユナ、ベニヤナギコリ、モサヤナギ、ササヤナギノリ、ソゾ属：クロソゾ、コブソゾ、ハネソゾ、ソゾノハナ、ハネグサ属：ハネグサ、ケハネグサ、コザネモ属：コザネモ、イソムラサキ、ホソコザネモ、ヒメゴケ属：ヒメゴケ、クロヒメゴケ、ヒオドシグサ属：キクヒオドシ、ヒオドシグサ、ウスバヒオドシ、アイソメグサ属：アイソメグサ、スジナシグサ属：スジナシグサ、イソバショウ属：イソバショウ、フジマツモ属：フジマツモ、ノコギリヒバ属：ハケサキノコギリヒバ、カワモズク属：カワモズク、アオカワモズク、ヒメカワモズク、イデユコゴメ属：イデユコゴメ、オキチモズク属：オキチモズク、イトグサ属、チノリモ属：チノリモ、チスジノリ属：チスジノリなど。

【0044】車輪藻類（シヤジモ属、シラタマモ属、ホシツリモ属：ホシツリモ、リクノタヌス属、フラスコモ属：ヒメフラスコモ、チャボフラスコモ、トリペラ属など）、黄色藻類（ヒカリモ属：ヒカリモなど）など。

【0045】又、動物系原料由来の素材としては、鶏冠抽出物、牛又は人の胎盤抽出物、豚又は牛の胃や十二指腸或いは腸の抽出物若しくはその分解物、豚又は牛の脾臓の抽出物若しくはその分解物、豚又は牛の脳組織の抽出物、水溶性コラーゲン、アシル化コラーゲン等のコラーゲン誘導体、コラーゲン加水分解物、エラスチン、エラスチン加水分解物、水溶性エラスチン誘導体、ケラチン及びその分解物又はそれらの誘導体、シルク蛋白及びその分解物又はそれらの誘導体、豚又は牛血球蛋白分解物（グロビンペプチド）、豚又は牛ヘモグロビン分解物（ヘミン、ヘマチン、ヘム、プロトヘム、ヘム鉄等）、牛乳、カゼイン及びその分解物又はそれらの誘導体、脱脂粉乳及びその分解物又はそれらの誘導体、ラクtofエリン又はその分解物、鶏卵成分、魚肉分解物など。

【0046】(14)微生物培養代謝物
酵母代謝物、酵母菌抽出エキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキス、米発酵エキス、米麹発酵エキス、ユーグレナ抽出物、生乳又は脱脂粉乳の乳酸発酵物やトレハロース又はその誘導体など。

【0047】(15) α -ヒドロキシ酸類
グリコール酸、クエン酸、リンゴ酸、酒石酸、乳酸など。

【0048】(16)無機顔料
無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、カオリン、ベントナイト、マイカ、雲母チタン、オキシ塩化ビスマス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、黄酸化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、グンジョウ、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、カラムンなど。

【0049】(17)紫外線吸収剤/遮断剤

ベンゾフェノン誘導体 (2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン、ジヒドロキシジメトキシベンゾフェノン-スルホン酸ナトリウム、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、テトラヒドロキシベンゾフェノンなど)、p-アミノ安息香酸誘導体 (パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラメチルアミノ安息香酸アミル、パラメチルアミノ安息香酸オクチルなど)、メトキシ桂皮酸誘導体 (パラメトキシ桂皮酸エチル、パラメトキシ桂皮酸イソプロピル、パラメトキシ桂皮酸オクチル、パラメトキシ桂皮酸2-エトキシエチル、パラメトキシ桂皮酸ナトリウム、パラメトキシ桂皮酸カリウム、ジパラメトキシ桂皮酸モノ-2-エチルヘキサノ酸グリセリルなど)、サリチル酸誘導体 (サリチル酸オクチル、サリチルフェニル、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸ジプロピレングリコール、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸ミリスチル、サリチル酸メチルなど)、アントラニル酸誘導体 (アントラニル酸メチルなど)、ウロカニン酸誘導体 (ウロカニン酸、ウロカニン酸エチルなど)、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ビリミジン誘導体、ジオキサソリン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、ウンベリフェロン、エスクリン、桂皮酸ベンジル、シノキサート、オキシベンゾン、ジオキシベンゾン、オクタベンゾン、スリソベンゾン、ペンソレソリノール、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ペルベリン、ネオヘリオパン、エスカロール、酸化亜鉛、タルク、カオリンなど。

【0050】(18)美白剤

p-アミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ビリミジン誘導体、ジオキサソリン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンC又はその誘導体 (ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシドなど)、ビタミンE又はその誘導体、コウジ酸又はその誘導体、オキシベンゾン、ベンゾフェノン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ペルベリン、胎盤エキス、エラガ酸、ルシノールなど。

【0051】(19)チロシナーゼ活性阻害剤

ビタミンC又はその誘導体 (ビタミンCリン酸エステルマグネシウム塩、ビタミンCグルコシドなど)、ハイドロキノン又はその誘導体 (ハイドロキノンベンジルエー

テルなど)、コウジ酸又はその誘導体、ビタミンE又はその誘導体、N-アセチルチロシン又はその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、胎盤エキス、エラガ酸、アルブチン、ルシノール、シルク抽出物、植物エキス (カミツレ、クワ、トウキ、ワレモコウ、クララ、ヨモギ、スイカズラ、キハダ、ドクダミ、マツホド、ハトムギ、オドリコソウ、ホップ、サザンサ、ユーカリ、セイヨウノコギリソウ、アルテア、マンケイシ、ハマメリス、ヤマグワ、延命草、桔梗、トシシ、統随子、射干、麻黄、センキュウ、ドクカツ、サイコ、ボウフウ、ハマボウフウ、オウゴン、牡丹皮、ジャクヤク、ゲンショウコ、葛根、甘草、五倍子、アロエ、ショウマ、紅花、緑茶、紅茶、阿仙葉) など。

【0052】(20)メラニン色素還元・分解物質
フェニル水銀へキサクロロフェン、酸化第二水銀、塩化第一水銀、過酸化水素水、過酸化亜鉛、ハイドロキノン又はその誘導体 (ハイドロキノンベンジルエーテル) など。

【0053】(21)ターンオーバーの促進作用/細胞賦活物質

ハイドロキノン、乳酸菌エキス、胎盤エキス、灵芝エキス、ビタミンA、ビタミンE、アラントイン、脾臓エキス、胸腺エキス、酵母エキス、発酵乳エキス、植物エキス (アロエ、オウゴン、スギナ、ゲンチアナ、ゴボウ、シコン、ニンジン、ハマメリス、ホップ、ヨクイニン、オドリコソウ、センプリ、トウキ、トウキンセンカ、アマチャ、オトギリソウ、キュウリ、タチジャコウソウ、ローズマリー、パセリ) など。

【0054】(22)収斂剤

コハク酸、アラントイン、塩化亜鉛、硫酸亜鉛、酸化亜鉛、カラミン、p-フェノールスルホン酸亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、レゾルシン、塩化第二鉄、タンニン酸 (カテキン化合物を含む) など。

【0055】(23)活性酸素消去剤

SOD、カタラーゼ、グルタチオンパーオキシダーゼなど。

【0056】(24)抗酸化剤

ビタミンC又はその塩、ステアリン酸エステル、ビタミンE又はその誘導体、ノルジヒドロガセレン酸、ブチルヒドロキシトルエン (BHT)、ブチルヒドロキシアニソール (BHA)、ヒドロキシチロソール、パルミチン酸、没食子酸プロピル、セサモール、セサモリン、ゴシボールなど。

【0057】(25)過酸化脂質生成抑制剤

β -カロテン、植物エキス (ゴマ培養細胞、アマチャ、オトギリソウ、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、セージ、ローズマリー、南天実、エイジツ、イチヨウ、緑茶) など。

【0058】(26)抗炎症剤

イクタモール、インドメタシン、カオリン、サリチル

酸、サリチル酸ナトリウム、サリチル酸メチル、アセチルサリチル酸、塩酸ジフェニヒドラミン、*d*-カンフル、*d*-*l*-カンフル、ヒドロコルチゾン、グアイアズレン、カマズレン、マレイン酸クロロフェニラミン、グリチルリチン酸又はその塩、グリチルレチン酸又はその塩、甘草エキス、シコンエキス、エイジツエキスなど。

【00059】(27)抗菌・殺菌・消毒薬

アクリノール、イオウ、グルコン酸カルシウム、グルコン酸クロルヘキシジン、スルファミン、マーキュロクロム、ラクトフェリン又はその加水分解物、塩化アルキルジアミノエチルグリシン液、トリクロサン、次亜塩素酸ナトリウム、クロラミント、サラン粉、ヨウ素化合物、ヨードホルム、ソルビン酸又はその塩、サルチル酸、デヒドロ酢酸、パラヒドロキシ安息香酸エステル類、ウンデシレン酸、チアミンラウリル硫酸塩、チアミンラウリル硫酸塩、フェノール、クレゾール、*p*-クロロフェノール、*p*-クロロ-*m*-キシレノール、*p*-クロロ-*m*-クレゾール、チモール、フェネチルアルコール、*o*-フェニルフェノール、イルガサンCH355、ハロカルバン、ヘキサクロロフェン、クロルヘキシジン、エタノール、メタノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール、エチレングリコール、プロピレングリコール、フェノキシエタノール、クロロブタノール、イソプロピルメチルフェノール、非イオン界面活性剤（ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルフェニルエーテルなど）、両性界面活性剤、アニオン界面活性剤（ラウリル硫酸ナトリウム、ラウロイルサルコシナリウムなど）、カチオン界面活性剤（臭化セチルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルモニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化メチルロザニリウム）、ホルムアルデヒド、ヘキサミン、ブリアントグリニン、マラカイトグリニン、クシタルバイオレット、ジマー、感光素101号、感光素201号、感光素401号、*N*-長鎖アシル塩基性アミノ酸誘導体及びその酸附加塩、酸化亜鉛、ヒノキチオール、クジンなど。

【00060】(28)保湿剤

グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ヒアルロン酸又はその塩、ポリエチレングリコール、コンドロイチン硫酸又はその塩、水溶性キチン或いはキトサン誘導体、ピロリドンカルボン酸又はその塩、乳酸ナトリウム、ミナサニシキエキス、納豆菌代謝物、納豆抽出エキスなど。

【00061】(29)エラスターゼ活性阻害剤

フロロリニン酸ジイソプロピル、植物エキス（オウゴン、オトギリソウ、クララ、桑の葉、ゲンノショウコ、コンフリー、セージ、セイヨウニワトコ、ボダイジュ、ボナンビ）、海藻エキスなど。

【00062】(30)頭髮用剤

二硫化セレン、臭化アルキルイソキノリニウム液、ジン

クビリチオン、ピフェナミン、チアントール、カスターチンキ、ショウキョウチンキ、トウガラシチンキ、塩酸キニーネ、強アンモニア水、臭素酸カリウム、臭素酸ナトリウム、チオグリコール酸など。

【00063】(31)抗アンドロゲン剤

卵胞ホルモン（エストロン、エストラジオール、エチニルエストラジオールなど）、イソフラボン、オキシセンドロンなど。

【00064】(32)末梢血管血流促進剤

ビタミンE又はその誘導体、センプリエキス、ニンニクエキス、人参エキス、アロエエキス、ゲンチアナエキス、トウキエキス、セファランチン、塩化カルプロニウム、ミノキシジルなど。

【00065】(33)局所刺激剤

トウガラシチンキ、ノニル酸パルアミド、カンタリスチンキ、ショウキョウチンキ、ハッカ油、1-メントール、カンフル、ニコチン酸ベンジルなど。

【00066】(34)代謝活性剤

感光素301号、ヒノキチオール、パントテン酸又はその誘導体、アラントイン、胎盤エキス、ビオチン、パンタデナ酸グリセリドなど。

【00067】(35)抗脂漏剤

ピリドキシン又はその誘導体、イオウ、ビタミンB6など。

【00068】(36)角質溶解剤

レゾルシン、サリチル酸、乳酸など。

【00069】(37)酸化剤

過酸化水素水、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウム、過ホウ酸ナトリウム、過酸化尿素、過炭酸ナトリウム、過酸化トリポリリン酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過酸化ピロリン酸ナトリウム、過酸化オルソリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム過酸化水素付加体、硫酸ナトリウム塩化ナトリウム過酸化水素付加体、 β -チロシナーゼ酵素液、マッシュルーム抽出液など。

【00070】(38)除毛剤

硫酸ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化バリウム、硫化カルシウムなどの無機系還元剤、チオグリコール酸又はその塩類（チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸ストロンチウム）など。

【00071】(39)毛髪膨潤剤

エタノールアミン、尿素、ゲアニンなど。

【00072】(40)染料剤

5-アミノオルトクレゾール、2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、3,3'-イミジフェノール、塩酸2,4-ジアミノフェノキシエタノール、塩酸2,4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2,5-ジアミン、塩酸ニ

トロパフェニレンジアミン、塩酸パラフェニレンジアミン、塩酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、酢酸N-フェニルパラフェニレンジアミン、1,4-ジアミノアントラキノン、2,6-ジアミノピリジン、1,5-ジヒドロキシナフタレン、トルエン-2,5-ジアミン、トルエン-3,4-ジアミン、ニトロパラフェニレンジアミン、パラアミノフェノール、パラニトロトルフェニレンジアミン、パラフェニレンジアミン、パラメチルアミノフェノール、ピクラミン酸、ピクラミン酸ナトリウム、N,N'-ビス(4-アミノフェニル)-2,5-ジアミノ-1,4-キノジギミン、5-(2-ヒドロキシエチルアミノ)-2-メチルフェノール、N-フェニルパラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、硫酸5-アミノトルフェノール、硫酸2-アミノ-5-ニトロフェノール、硫酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルパラフェニレンジアミン、硫酸4,4'-ジアミノジフェニルアミン、硫酸2,4-ジアミノフェノール、硫酸トルエン-2,5-ジアミン、硫酸ニトロパラフェニレンジアミン、硫酸パラアミノフェノール、硫酸パラニトロトルフェニレンジアミン、硫酸パラニトロメタフェニレンジアミン、硫酸パラフェニレンジアミン、硫酸パラメチルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫酸メタフェニレンジアミン、カチコール、フェニルアミン、 α -ナフトール、ヒドロキノ、ビロガロール、フロログルシン、没食子酸、レゾルシン、タンニン酸、2-ヒドロキシ-5-ニトロ-2',4'-ジアミノアゾベンゼン-5'-スルホン酸ナトリウム、ヘマテインなど。

【0073】(4)香料

ジャコウ、シベット、カストリウム、アンバグリスなどの天然動物性香料、アニス精油、アンゲリカ精油、イランイラン精油、イリス精油、ウイキョウ精油、オレンジ精油、カンガ精油、クラウ精油、カルダモン精油、グアヤクウッド精油、クミン精油、黒文字精油、ケイ皮精油、シンナモン精油、グラニウム精油、コパイバルサム精油、コリアンデル精油、シソ精油、シダーウッド精油、シトロネラ精油、ジャスミン精油、ジンジャーグラス精油、杉精油、スベアミント精油、西洋ハッカ精油、大茴香精油、チュペローズ精油、丁香精油、橙花精油、冬緑精油、トルバルサム精油、パチューリ精油、バラ精油、パルマローザ精油、絵精油、ヒバ精油、白檀精油、プチゲル精油、ベイ精油、ベチバ精油、ベルガモット精油、ペルーバルサム精油、ボアドローズ精油、芳樟精油、マンダリン精油、ユーカリ精油、ライム精油、ラベンダー精油、リナエ精油、レモングラス精油、レモン精油、ローズマリー精油、和種ハッカ精油などの植物性香料、その他合成香料など。

【0074】(42)色素・着色料

赤キャベツ色素、赤米色素、アカネ色素、アナト色素、イカスミ色素、ウコン色素、エンジュ色素、オキア

ミ色素、柿色素、カラメル、金、銀、クチナシ色素、コーン色素、タマネギ色素、タマリンド色素、スビルリナ色素、ソバ全草色素、チェリー色素、海苔色素、ハイビスカス色素、ブドウ果汁色素、マリーゴールド色素、紫イモ色素、紫アマイモ色素、ラック色素、ルチンなど。

【0075】その他、保湿剤、ホルモン類、金属イオン封鎖剤、pH調整剤、キレート剤、防腐・防バイ菌、清涼剤、安定化剤、乳化剤、動・植物性蛋白質及びその分解物、動・植物性多糖類及びその分解物、動・植物性糖蛋白質及びその分解物、血流促進剤、消炎剤・抗アレルギー剤、細胞賦活剤、角質溶解剤、創傷治療剤、増殖剤、増粘剤、口腔用剤、消臭・脱臭剤、苦味料、調味料、酵素などが上げられ、これらとの併用によって、相乗的及び相乗的な各種の効果が期待できる。

【0076】又、本発明の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧料組成物の剤型は任意であり、カプセル、粉末、顆粒、固形、液体、ゲル、気泡、乳液、クリーム、軟膏、シートなどの形態で配合して用いることができる。

【0077】具体的には、例えば、外用薬用製剤、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パックなどの基礎化粧料、洗顔料や皮膚洗浄料、除毛剤、脱毛剤、アフターシェーブローション、フレグモーション、シェービングクリーム、シャブナー、リンス、ヘアトリートメント、整髪料、パーマ剤、ヘアートニック、染毛料、育毛・養毛料などの頭髪化粧料、ファンデーション、口紅、頬紅、アイシャドウ、アイライナー、マスカラなどのメイクアップ化粧料、香水類、浴用剤、その他、歯磨き類、口中清涼剤・含嗽剤、消臭剤、防臭剤、衛生綿類、ウエットティッシュなど様々な製品に応用でき、又、一般的な食品への使用もできる。

【0078】尚、本発明の抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧料組成物への添加の方法については、予め加えておいても、製造途中に添加しても良く、作業性を考えて適宜選択すれば良い。

【0079】

【実施例】以下に、試験例、処方例を挙げて説明する

が、本発明はこれらに制約されるものではない。

【0080】(製造例1) カカオ、ケイヒ、チンピの各植物乾燥物100gをそれぞれ50%エタノール溶液1Lに浸漬し、室温にて3昼夜抽出した後、濾過して抽出液(乾燥固形分: カカオ0.5~2.5重量%、ケイヒ0.8~2.4重量%、チンピ1.5~3.2重量%)を約1.0~3.0g得る。

【0081】(製造例2) カカオ、ケイヒ、チンピの乾燥物100gを30%プロピレングリコール溶液及び30%1,3-ブチレングリコール溶液の等量混液1Lにて50℃で6時間緩やかに加温抽出し、吸引ろ過して抽出液(乾燥固形分: カカオ0.5~2.5重量%、ケイヒ0.8~2.4重量%、チ

ンピ1.5~3.0重量%)を約1.0~3.0kg得る。

【0082】(製造例3)カカオ、ケイヒ、チンピの各植物乾燥物100gをそれぞれを精製水(約80℃)1Lに浸漬し、約5時間加温抽出し、濾過して抽出液(乾燥固形分:カカオ0.5~2.0重量%、ケイヒ0.8~2.6重量%、チンピ1.5~3.0重量%)を約1.0~3.0kg得る。

【0083】(製造例4)カカオ、ケイヒ、チンピの各植物乾燥物100gをそれぞれを精製水(常温)にて約5時間加温抽出し、濾過して抽出液(乾燥固形分:カカオ0.5~2.0重量%、ケイヒ0.8~2.5重量%、チンピ1.5~3.0重量%)を約1.0~3.0kg得る。

【0084】(試験1)ヒスタミン遊離抑制試験
1型アレルギー反応では、第2段階において感作された肥満細胞あるいは好塩基球からヒスタミンなどの化学伝達物質が遊離する。従って、ヒスタミン遊離を抑制するような物質は抗アレルギー作用が期待できる。本試験ではラットの肥満細胞からヒスタミン遊離試薬であるcompound48/80でヒスタミンを遊離させる試験法(J.Soc.Cosmet.Japan, Vol.25, No.4, P.246 (1992))を用い、製造例1で得られた抽出液について検討した。

【0085】「試験方法及び評価方法」

a. 試料

抽出液は減圧下で溶媒を留去後、精製水にて固形分濃度を0.5重量%となるように再溶解し、試験に供した。尚、比較対照として同濃度のグリチルリチン酸ジカリウム(キシダ化学製)を用いた。

b. 遊離ヒスタミン量の測定

ラット(Slc:Wistar系雄性ラット、約4~9週齢)の腹腔内から採取した肥満細胞浮遊液1.2mLに、試料0.2mLとcompound48/80を最終濃度1μg/mLとなるように加え、37℃で15分間インキュベートした。氷冷して反応停止後、反応液を遠心分離し、上澄から遊離したヒスタミンを抽出、精製し、α-フルタルアルデヒドにて発色させ、励起波長360nm、蛍光波長450nmにおける蛍光吸光度を測定し、次式(数1)によりヒスタミン遊離抑制率を求め、結果は図1に示した。

【0086】〈数1〉

$$\text{ヒスタミン遊離抑制率}(\%) = \{1 - (A - C / B - C)\} \times 100$$

A: 肥満細胞に試料を共存させてヒスタミン遊離剤を加えたときに遊離したヒスタミンの蛍光強度

B: 肥満細胞にヒスタミン遊離剤を加えたときに遊離したヒスタミンの蛍光強度

C: 肥満細胞から自然に遊離されるヒスタミンの蛍光強度(A, B, Cは測定値から官能値を引いたものである。)

【0087】(試験結果)図1の通り、本発明のカカオ、ケイヒ及びチンピ抽出物は、グリチルリチン酸ジカリウムに比べ、非常に優れたヒスタミン遊離抑制作用を有することが確認され、抗アレルギー剤として使用でき

る。

【0088】(試験2)アラキドン酸耳浮腫抑制試験
1型アレルギー反応においては、IgE抗体と抗原の反応により、細胞膜のリン脂質が破壊されてアラキドン酸が遊離し、各種酵素の作用を受けて化学伝達物質の1つであるプロスタグランジン、SRS-Aに代謝され、その結果、各種のアレルギー症状を発現する。従って、このアラキドン酸の代謝活性を抑制する作用を有する物質は抗アレルギー剤としての利用が期待できる。本試験では、製造例1で得られた抽出液を含有する親水軟膏を処方し、新納らの方法(「3,4-Dihydroxycalcone類のマウスアラキドン酸耳浮腫に対する作用」:日本薬学会第113年会)を参照して、その検討を行った。

【0089】「試験方法及び評価方法」

a. 試料

抽出液は減圧下で溶媒を留去して濃縮後、固形分濃度に換算して10.0重量%になる量を含むような親水性軟膏剤を常法により製造、使用した。尚、陽性対照としてはグリチルリチン酸ジカリウム(キシダ化学製)を配合した軟膏剤を使用した。

b. 浮腫腫脹率の測定

上記の軟膏剤をあらかじめアラキドン酸塗布の約3,2,1時間前に計3回、マウス(Slc:1CR系雌性マウス、約6週齢)右側耳介に丹念に擦り込むように塗布した。アラキドン酸塗布直前に耳介に付着している軟膏を拭き取り、アセトンに溶解した5重量%アラキドン酸(SIGMA製)20μLを塗布し、1時間後耳介をパンチ切除(5.0mm)した。同様に左側耳介も切除を行い、左右耳介の重量差よりアラキドン酸耳浮腫腫脹率を測定した。判定はプランクとして基剤のみを塗布した対照群の耳浮腫腫脹率と比較して耳浮腫抑制率を算出した。尚、各試験系にはマウスを8~9匹使用し、結果は表1に示した。

【0090】

(表1)

濃度(%)	アラキドン酸耳浮腫抑制率(%)			
	カカオ抽出物	ケイヒ抽出物	チンピ抽出物	グリチルリチン酸ジカリウム
10.0	58.7	14.3	33.5	51.4

【0091】(試験結果)表1の通り、本発明のカカオ、チンピ抽出物は、グリチルリチン酸ジカリウムとは同等の優れた耳浮腫抑制作用を有し、又、ケイヒ抽出物についても若干ではあるが、耳浮腫抑制作用を示し、アラキドン酸代謝活性抑制作用を有することが確認された。

【0092】(試験3)接触皮膚炎抑制試験

接触皮膚炎反応においては、抗原によって感作されたT

リンパ球は、再び同一抗原に接触すると、マクロファージやリンパ球を活性化させる種々のリンホカインを放出し、炎症反応を引き起こす。従って、同一抗原に対して起こる一連の炎症反応を抑制するような物質は遅延型（IV型）アレルギー剤としての利用が期待できる。本試験では、製造例1で得られた抽出液を含有する親水ワセリン軟膏を処方し、中村の方法（日薬理誌、76、595（1980））に準じて、パラフェニレンジアミン誘発接触皮膚炎反応に対する、その作用の検討を行った。

【0093】「試験方法及び評価方法」

a. 試料

抽出液は減圧下で溶媒を留去して濃縮後、固形分換算して10.0重量%となる量を含有する親水ワセリン軟膏を常法により製造、使用した。尚、陽性対照としてはグリチルリチン酸ジカリウム（キシダ化学製）を配合した軟膏剤を使用した。

b. 浮腫腫脹率の測定

まず、マウス（BALB/c雌性マウス：約8週齢）の剪毛腹部皮膚に2.5%パラフェニレンジアミン/アセトン：オリーブ油＝4：1（以下、PPD）を0.1mLを3日間連続塗布して感作を行い、5日後被験薬20mgを1時間間隔で3回片側耳介に塗布した。最終塗布1時間後に、被験薬物を十分拭き取り、その耳介にPPDを20μLを塗布し惹起した。惹起17時間後再び被験薬物を1時間間隔で2回惹起した耳介に塗布し、次に惹起18時間後に被験薬物を十分拭き取り、惹起24時間後に両側耳介をパンチにて一定面積（直径5.0mm）取り、その重量を測定した。判定は未処理の片側耳介の重量の差より腫脹率を測定し、対照群と比較し皮膚炎の抑制率を算出した。尚、試験にはマウスを8～9匹使用し、結果は表2に示した。

【0094】

（表2）

濃度(%)	接触皮膚炎抑制率(%)			
	カカオ抽出物	ケイヒ抽出物	チンピ抽出物	グリチルリチン酸ジカリウム
10.0	20.0	12.8	15.8	35.9

【0095】（試験結果）表2の通り、本発明のカカオ、ケイヒ及びチンピ抽出物は、陽性対照のグリチルリチン酸ジカリウムの抑制率より若干弱い接触皮膚炎抑制（処方例1）乳液

* 制作用を有することが確認された。

【0096】（試験4）安全性試験

（1）皮膚一次刺激性試験

製造例1～4で得られた抽出液を固形分濃度が約2.0重量%になるように調整し、これを背部を剪毛したハートレー系モルモット（雌性、1群3匹、体重300～350g）の皮膚の2×2cm²の四角当たり0.03mLずつ塗布した。判定は、適用後24、48、72時間に一次刺激性の評価法により紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果、全ての動物において、何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

【0097】（試験5）安全性試験

（2）皮膚累積刺激性試験

製造例1～4で得られた抽出液を固形分濃度が約2.0重量%となるように調整し、これを側腹部を剪毛（2×4cm²）したハートレー系モルモット（雌性、1群3匹、体重320g前後）の皮膚に1日1回、週5回、0.5mL/動物当たりを塗布した。塗布は2週にわたって、又、剪毛は各週の最終塗布日に行った。判定は、各塗布日及び最終塗布日の翌日に一次刺激性の評価法により紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果、全ての動物において、塗布後2週間にわたって、何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判断された。

【0098】（試験6）安全性試験

（3）単回投与毒性試験

製造例1～4で得られた各種植物抽出粉末を12.5%濃度になるよう精製水にて調整し、一匹につき16mL/kg量を、試験前、16時間絶食させたddy系マウス（雌性及び雄性、1群5匹、5週齢）に経口にてゾンデを以て投与し、毒性症状の発現、程度などを経時的に観察した。その結果、全てのマウスにおいて14日間、何等異常を認めず、解剖の結果も異常がなかった。よって、LD50は2.00mg/kg以上であり、安全な物質と判断した。

【0099】（処方例）抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性抑制剤、接触皮膚炎抑制剤又は化粧料組成物の製造
上記の評価結果に従い、以下にその処方例を示すが、各処方例は各製品の製造における常法により製造したもので良く、配合量のみを示した。又、本発明はこれらに限定されるわけではない。

【0100】

重量%

- | | |
|-------------------------|-----|
| 1. スクワラン | 8.0 |
| 2. ホホバ油 | 7.0 |
| 3. セチルアルコール | 1.5 |
| 4. グリセリンモノステアレート | 2.0 |
| 5. ポリオキシエチレン(20)セチルエーテル | 3.0 |

6.ポリオキシエチレン(20)ソルビタンモノオレート	2.0
7.1,3-ブチレングリコール	1.0
8.グリセリン	2.0
9. A:製造例1のカカオ抽出液	
B:製造例1のケイヒ抽出液	
C:製造例1のチンピ抽出液	
※A~Cの何れか1種の抽出液	5.0
10.防腐剤(パラオキシ安息香酸エステル)	適量
11.精製水	100とする残余

【0101】

10

(処方例2)化粧用オイル

	重量%
1.流動パラフィン	30.0
2.スクワラン	20.0
3.オリーブ油	20.0
4.パルミチン酸イソプロピル	10.0
5.製造例3のチンピ抽出液	1.0
6.チンピ熱水抽出エキス	1.0
7.サルビア熱水抽出エキス	1.0
8.ブチルヒドロキシアニソール	0.1
9.防腐剤(塩化ベンザルコニウム)	適量
10.香料(ウイキョウ水)	適量
11.精製水	100とする残余

【0102】

(処方例3)柔軟性化粧水

	重量%
1.グリセリン	5.0
2.1,3-ブチレングリコール	5.0
3.モラカシ酸トリメチルセリレート(20E.0)	1.0
4.エタノール	15.0
5.ケイヒ50%エタノール抽出液	2.0
6.チンピ50%エタノール抽出液	1.0
7.モロヘイヤ50%エタノール抽出液	1.0
8.抗菌・防腐剤(チアミンラウリル硫酸塩)	適量
9.香料(ウイキョウ水)	適量
10.精製水	100とする残余

【0103】

(処方例4)取れん化粧水

	重量%
1.ソルビット	2.0
2.POE(20)オレイルアルコール	1.0
3.エタノール	15.0
4.チンピ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
5.カカオ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
6.緑茶50%エタノール抽出液	1.0
7.ハマメリス50%エタノール抽出液	1.0
8.アラントイン	0.2
9.取れん剤(スルホ石炭酸亜鉛)	0.2
10.抗菌・防腐剤(チアミンラウリル硫酸塩)	適量
11.香料(ラベンダー水)	適量

12.精製水

100とする残余

【0104】

(処方例5) 2層式化粧水(液～液型)

	重量%
1.スクワラン	8.0
2. P O E ガリシテラレイン酸エステル	0.3
3. ソルビット	1.0
4. エタノール	15.0
5. 製造例2のチンビ抽出液	2.0
6. 細辛30%エタノール抽出液	1.0
7. ゲンノショウコ30%エタノール抽出液	1.0
8. アスコルビン酸	0.2
9. 収れん剤(スルホ石炭酸ソーダ)	0.2
10. 防腐剤(フェノキシエタノール)	適量
11. 香料(ボダイジュ水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0105】

(処方例6) カーミンローション(液～固型)

	重量%
1. グリセリン	3.0
2. 1,3-ブチレングリコール	5.0
3. エタノール	15.0
4. 酸化鉄(ベンガラ)	0.2
5. 酸化亜鉛	0.5
6. カオリン	2.0
7. カカオ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
8. グレープフルーツ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
9. 桃葉50%プロピレングリコール抽出液	2.0
10. プラセンタエキス	1.0
11. カンファール	0.2
12. フェノール	0.03
13. 防腐剤(感光素201号)	適量
14. 香料(トウキ水)	適量
15. 精製水	100とする残余

【0106】

(処方例7) パック

	重量%
1. ポリビニルアルコール	15.0
2. カルボキシメチルセルロースナトリウム	5.0
3. プロピレングリコール	3.0
4. エタノール	10.0
5. 製造例3のカカオ抽出液	1.0
6. ユキノシタ50%エタノール抽出液	1.0
7. サボンソウ50%エタノール抽出液	1.0
8. 防腐剤(パラオキシ安息香酸エステル)	適量
9. 香料(セージ水)	適量
10. 精製水	100とする残余

【0107】

(処方例8) ビールオフパック

重量%

1.グリセリン	5.0
2.プロピレングリコール	4.0
3.ポリビニルアルコール	15.0
4.エタノール	8.0
5.ポリオキシエチレングリコール	1.0
6.パントテニルエチルエーテル	1.0
7.ジャスミン精油	3.0
8.チンピ50%エタノール抽出液	1.0
9.海藻(ヒバマタ)50%エタノール抽出液	1.0
10.防腐剤(パラオキシ安息香酸エステル)	適量
11.香料(トウキ水)	適量
12.精製水	100とする残余

【0108】

(処方例9) コールドクリーム

	重量%
1.サラシミツロウ	11.0
2.流動パラフィン	22.0
3.ラノリン	10.0
4.オリーブ油	15.0
5.ホウ砂	0.5
6.カカオ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	1.0
7.チンピ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
8.液状シア脂	1.0
9.西洋スモモ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
10.防腐剤(アクリノール)	0.1
11.香料(セージ水)	適量
12.精製水	100とする残余

【0109】

(処方例10) エモリエントクリーム

	重量%
1.ステアリン酸	2.0
2.ステアリルアルコール	7.0
3.還元ラノリン	2.0
4.スクワラン	5.0
5.オクチルドデカノール	6.0
6.ポリオキシエチレンセチルエーテル(25E.O.)	3.0
7.親油性モノステアリン酸グリセリン	2.0
8.プロピレングリコール	5.0
9.チンピ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
10.フィクタンボボ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
11.メリッサ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
12.防腐剤(パラベン)	適量
13.香料(トウキ水)	適量
14.精製水	100とする残余

【0110】

(処方例11) 洗顔クリーム

	重量%
1.ミリスチン酸	25.0
2.ステアリン酸	5.0
3.牛脂脂肪酸	5.0

4. プロピレングリコール	10.0
5. 水酸化カリウム	6.0
6. ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	6.0
7. ケイヒ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
8. シイタケ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
9. 松50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
10. グリチルレチン酸ジカリウム	1.0
11. ローヤルゼリーエキス	0.1
12. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
13. 香料 (セージ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0111】

(処方例12) 洗顔クリーム

	重量%
1. ステアリン酸	10.0
2. パルミチン酸	10.0
3. ミリスチン酸	12.0
4. ラウリン酸	4.0
5. オレイルアルコール	1.5
6. ラノリン誘導体 (E.O. 付加物)	1.0
7. グリセリン	18.0
8. 水酸化カリウム	6.0
9. 製造例4のカカオ、ケイヒ又はチンピ抽出液	1.0
10. グリチルレチン酸	1.0
11. 防腐剤 (サルチル酸)	0.1
12. 香料 (トウキ水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【0112】

(処方例13) ボディーソープ

	重量%
1. ラウリン酸カリウム	15.0
2. ミリスチン酸カリウム	5.0
3. プロピレングリコール	5.0
4. カカオ60%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
5. ケイヒ60%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
6. シナノキ30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
7. トルメンチラ30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
8. オドリコソウ30%1,3-ブチレングリコール抽出液	0.5
9. ポリエチレン末	0.5
10. 納豆菌代謝物	0.5
11. アミノ酸 (グリシン、グルタミンなど)	0.5
12. 防腐剤 (ウンデシレン酸、フェノール)	適量
13. pH調整剤	適量
14. 香料 (ブドウ水)	適量
15. 精製水	100とする残余

【0113】

(処方例14) サンスクリーン化粧品 (O/W型)

	重量%
1. オキシベンゾン	2.0
2. パラメトキシケイ皮酸オクチル	5.0

3.スクワラン	10.0
4.ワセリン	5.0
5.ステアリアルアルコール	3.0
6.ステアリン酸	3.0
7.グリセリルモノステアレート	2.0
8.ポリアクリル酸エチル	1.0
9.1,3-ブチレンジグリコール	6.0
10.エデト酸二ナトリウム	0.1
11.トリエタノールアミン99%	1.0
12.酸化チタン	5.0
13.カカオ30%1,3-ブチレンジグリコール抽出液	0.5
14.シラカバ50%エタノール抽出液	0.5
15.紅花50%エタノール抽出液	0.5
16.防腐剤（パラベン）	適量
17.香料（アップル水）	適量
18.精製水	100とする残余

【0114】

(処方例15) サンスクリーン化粧品（オイルタイプ）

	重量%
1.流動パラフィン	70.0
2.パラミノ安息香酸エチル	1.0
3.テトラヒドロキシベンゾフェノン	1.0
4.セチルオクタノエート	25.0
5.ケイヒ30%1,3-ブチレンジグリコール抽出液	0.5
6.チンピ30%1,3-ブチレンジグリコール抽出液	0.5
7.ヤグルマギク30%1,3-ブチレンジグリコール抽出液	0.5
8.レンジソウ50%エタノール抽出液	0.5
9.酸化防止剤（ブチルヒドロキシトルエン）	適量
10.香料（トウキ水）	適量

30

【0115】

(処方例16) クリームファンデーション（O/W型）

	重量%
1.ステアリン酸	4.0
2.モノステアリン酸グリセリン	3.0
3.セタノール	1.5
4.ミリスチン酸イソプロピル	7.0
5.流動パラフィン	10.0
6.サラシミツロウ	3.0
7.トリエタノールアミン	1.5
8.グリセリン	3.0
9.ベントナイト	1.0
10.酸化チタン	8.0
11.カオリン	3.0
12.タルク	3.0
13.着色顔料	1.0
14.製造例1のカカオ抽出液の乾燥粉末	0.1
15.紅花熱水抽出粉末	0.5
16.防腐剤（パラベン）	適量
17.香料（ラベンダー水）	適量
18.精製水	100とする残余

【0116】

(処方例17) シャンプー

	重量%
1. ラウリル硫酸トリエタノールアミン	5.0
2. ポリオキシエチレンラウリエーテル硫酸ナトリウム	12.0
3. 1,3-ブチレングリコール	4.0
4. ラウリン酸ジエタノールアミド	2.0
5. エデト酸二ナトリウム	0.1
6. カカオ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
7. チンピ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
8. ローズマリー30%エタノール抽出液	1.0
9. コラーゲン加水分解物	1.0
10. 抗菌・防腐剤 (チアミンラウリル硫酸塩)	適量
11. pH調整剤	適量
12. 香料 (ハマメリス水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【0117】

(処方例18) リンス

	重量%
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2. セトステアリルアルコール	2.0
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. ケイヒ50%エタノール抽出液	1.0
6. アロエ50%エタノール抽出液	1.0
7. ハンゲ50%エタノール抽出液	1.0
8. シャクヤク50%エタノール抽出液	1.0
9. トレハロース溶液	1.0
10. 加水分解シルク溶液	1.0
11. 牡丹皮50%エタノール抽出液	0.5
12. 抗菌・防腐剤 (塩化ベンザルコニウム)	適量
13. 香料 (ボダイジュ水)	適量
14. 精製水	100とする残余

【0118】

(処方例19) リンス

	重量%
1. 塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2. セトステアリルアルコール	2.0
3. ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. ウヤク50%エタノール抽出液	1.0
6. ケイヒ50%エタノール抽出液	1.0
7. シャクヤク50%エタノール抽出液	1.0
8. トレハロース溶液	1.0
9. 加水分解シルク溶液	1.0
10. 抗菌・防腐剤 (塩化ベンザルコニウム)	適量
11. 香料 (カミツレ水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0119】

(処方例20) ヘアーリキッド

	重量%
1. エタノール	29.0
2. ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0
3. ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0
4. トリエタノールアミン	1.0
5. ウヤク熱水抽出液	1.0
6. コウボク50%熱水抽出液	1.0
7. チンピ50%熱水抽出液	1.0
8. 塩化カルプロニウム	0.3
9. ヒノキチオール	0.5
10. ケラチン分解溶液	1.0
11. 抗菌・防腐剤 (パラベン、塩化ベンザルコニウム)	適量
12. 香料 (リンゴ水)	適量
13. 精製水	100とする残余

【0120】

(処方例21) ヘアーリキッド

	重量%
1. エタノール	29.0
2. ポリオキシプロピレンブチルエーテルリン酸	10.0
3. ポリオキシプロピレンモノブチルエーテル	5.0
4. トリエタノールアミン	1.0
5. カカオ50%エタノール抽出液	1.0
6. パリエタリア50%エタノール抽出液	1.0
7. トウニン50%エタノール抽出液	1.0
8. 海藻 (ヒジリメン、コンブ) 50%エタノール抽出液	1.0
9. ケラチン分解溶液	1.0
10. 抗菌・防腐剤 (パラベン、塩化ベンザルコニウム)	適量
11. 香料 (カミツレ水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0121】

30

(処方例22) ヘアートニック

	重量%
1. エタノール	40.0
2. オレイン酸エチル	1.0
3. ポリオキシエチレン(40)硬化ヒマシ油	2.0
4. A : 製造例1のカカオ抽出液	
B : 製造例1のケイヒ抽出液	
C : 製造例1のチンピ抽出液	
※ A~Cの何れか1種の抽出液	5.0
5. 防腐剤 (パラベン)	適量
6. 精製水	100とする残余

【0122】

(処方例23) ヘアートニック

	重量%
1. 1-メントール	0.2
2. エタノール	32.5
3. ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	0.5
4. プロピレングリコール	5.0
5. 塩酸ジフェニヒドラミン	0.3
6. カカオ50%メタノール抽出液	2.0

7. ヒアルロン酸ナトリウム溶液	1.0
8. カルボキシメチルキチン溶液	1.0
9. ホエイ溶液	1.0
10. 抗菌・防腐剤 (パラベン)	0.1
11. 香料 (ローズ水)	適量
12. 精製水	100とする残余

【0123】

(処方例24) 育毛・養毛剤

	重量%
1. エタノール	60.0
2. カカオ50%プロピレングリコール抽出液	5.0
3. チンピ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
4. ボタンピ70%プロピレングリコール抽出液	2.0
5. ビタミンE誘導体	0.5
6. トウガラシチンキ	0.5
7. レゾルシン	0.5
8. グリチルリチン酸	0.5
9. ヒドロキシプロピルキトサン溶液	0.5
10. 牛ヘマチン液	0.5
11. チンピ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
12. シラカバ50%プロピレングリコール抽出液	2.0
13. アミノ酸 (グリシン、グルタミンなど)	0.5
14. 抗菌・防腐剤 (パラベン)	0.1
15. 香料 (ローズマリー)	適量
16. 精製水	100とする残余

【0124】

(処方例25) 育毛・養毛剤

	重量%
1. エタノール	60.0
2. チンピ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
3. コウボク50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
4. サクラ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	5.0
5. カンタリスチンキ	0.5
6. パントテン酸誘導体	0.5
7. レゾルシン	0.5
8. グリチルリチン酸	0.5
9. サリチル酸	0.5
10. ヒドロキエチルキトサン溶液	0.5
11. エラスチン加水分解液	0.5
12. レンゲソウ50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
13. 大豆50%1,3-ブチレングリコール抽出液	2.0
14. エラスチン加水分解液	0.5
15. 抗菌・防腐剤 (パラベン)	0.1
16. 香料 (ラベンダー)	適量
17. 精製水	100とする残余

【0125】

(処方例26) 顆粒浴用剤

	重量%
1. 炭酸水素ナトリウム	58.0
2. 無水硫酸ナトリウム	30.0

45		46
3.ホウ砂		3.0
4.A:製造例1のカカオ抽出液乾燥粉末		
B:製造例1のケイヒ抽出液乾燥粉末		
C:製造例1のチンビ抽出液乾燥粉末		
※A~Cの何れか1種の抽出液		10.0
5.色素(グンジョウピンク)		適量

【0126】

(処方例27) 顆粒浴用剤

	重量%
1.炭酸水素ナトリウム	58.0
2.無水硫酸ナトリウム	30.0
3.ホウ砂	3.0
4.ケイヒ70%エタノール抽出粉末	1.0
5.オドリコン70%エタノール抽出粉末	1.0
6.カミツレ70%エタノール抽出粉末	1.0
7.桑白皮70%エタノール抽出粉末	1.0
8.ノバラ70%エタノール抽出粉末	1.0
9.オレンジ果汁粉末	1.0
10.色素(黄酸化鉄)	適量
11.香料(ハマメリス水)	適量

【0127】(処方例28) 被覆保護剤

ガーゼ又はリニメント布にチンビ30%エタノール抽出液、抗生物質・抗炎症など適量を混合した処方液を含浸させ、外傷部に添付する。又、チンビ30%エタノール抽出液を直接、局所に散布し、ガーゼなどで被覆しても良い。

【0128】(試験7) 使用効果試験

本発明の化粧料組成物を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストは湿疹、肌のカユミ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患で悩む2~30歳の10名をパネラーとし、毎日、朝と夜の2回、洗顔後に処方例1の乳液の適量を顔面に3ヶ月に渡って塗布することにより行った。又、頭皮や髪の生え際に同様の皮膚疾患が見られる10名(2~10歳)についても、毎日の洗髪後、処方例2のヘアートニックの適量を頭皮に3ヶ月に渡って塗布することにより使用テストを実施した。

【0129】更に、処方例26の浴用剤についても、湿疹、肌のカユミ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚

疾患で悩む0~45歳の20名を対象に、3ヶ月間、必ず1日1回適量の浴用剤を溶解させた浴湯に入浴してもらい、使用テストを実施した。対照には、乳液、ヘアートニックから本発明のカカオ、ケイヒ、チンビ抽出物を除き、精製水に変えたものを同様な方法にて処方したものをを用いた。又、浴用剤については本発明のカカオ、ケイヒ、チンビ抽出物の乾燥粉末の代わりに無水硫酸ナトリウムで補正し、同様の方法にて処方したものをを用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表3の通りで表中の数値は人数を表す。尚、使用期間中に皮膚又は頭皮の異常を訴えた者はなかった。

【0130】「皮膚(頭皮)疾患改善効果」

有 効:湿疹、肌のカユミ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患が改善された。

やや有効:湿疹、肌のカユミ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患がやや改善された。

無 効:使用前と変化なし。

【0131】〈表3〉

剤 型	試料	有 効	やや有効	無 効
乳 液	カカオ抽出物	4	6	0
	ケイヒ抽出物	3	6	1
	チンピ抽出物	2	8	0
	対照品	0	1	9
ヘアートニック	カカオ抽出物	4	5	1
	ケイヒ抽出物	4	5	1
	チンピ抽出物	1	8	1
	対照品	0	0	10
浴用剤	カカオ抽出物	9	10	1
	ケイヒ抽出物	6	12	2
	チンピ抽出物	3	14	3
	対照品	1	1	18

【0132】（試験結果）表3の通り、本発明のカカオ、ケイヒ、チンピ抽出物を含有した化粧料組成物（乳液、ヘアートニック、浴用剤）の使用は、湿疹、かゆみ、肌荒れやアトピー性皮膚炎などの皮膚・頭皮疾患に対して、良好な効果が確認された。

【0133】

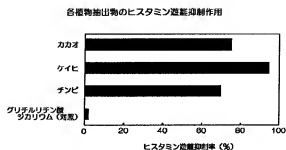
【発明の効果】本発明のカカオ、ケイヒ、チンピから選ばれる1種以上の植物抽出物は、ヒスタミン遊離抑制作用、アラキドン酸代謝活性抑制作用、接触皮膚炎抑制作用を有し、人又は動物に対して外用しても安全なものである。従って、抗アレルギー剤、ヒスタミン遊離抑制剤、アラキドン酸代謝活性剤、接触皮膚炎抑制剤として

使用でき、あらゆる形態の製剤（医薬品類、医薬部外品類、化粧品類）への応用も可能である。又、本発明の化粧料組成物は、アレルギー性・接触性の皮膚炎疾患（例えば、発赤、湿疹、浮腫、腫脹など）や、アトピー性皮膚炎、肌荒れといったトラブルを有する皮膚・頭皮に対して、その予防及び改善を目的として使用することができ、その他、口腔用組成物や食品への利用展開も可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のカカオ、ケイヒ及びチンピ抽出物のヒスタミン遊離抑制作用を示す図である。

【図1】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁷

識別記号

F I

サーチコード (参考)

A 6 1 P 17/00
 // A 6 1 K 7/06
 7/075
 7/08
 7/42
 7/50

A 6 1 P 17/00
 A 6 1 K 7/06
 7/075
 7/08
 7/42
 7/50

F ターム (参考) 4C083 AA032 AA072 AA082 AA111
 AA112 AA122 AB032 AB212
 AB232 AB242 AB272 AB312
 AB352 AB432 AB442 AC012
 AC022 AC072 AC082 AC092
 AC102 AC122 AC132 AC172
 AC182 AC242 AC252 AC352
 AC402 AC422 AC432 AC442
 AC472 AC482 AC532 AC542
 AC552 AC582 AC642 AC682
 AC692 AC782 AC792 AC812
 AC852 AC862 AC902 AD022
 AD092 AD112 AD202 AD272
 AD322 AD332 AD412 AD432
 AD442 AD452 AD512 AD532
 AD552 AD662 CC03 CC04
 CC05 CC06 CC07 CC12 CC22
 CC23 CC25 CC32 CC37 CC38
 CC39 DD16 DD23 DD27 DD31
 DD32 DD33 EE13 EE21 EE22
 EE41
 4C088 AB12 AB33 AB62 ACO4 ACO6
 AC11 BA08 BAO9 BA10 MA07
 MA63 NA15 ZA89 ZB11 ZB13
 ZC13 ZC21